

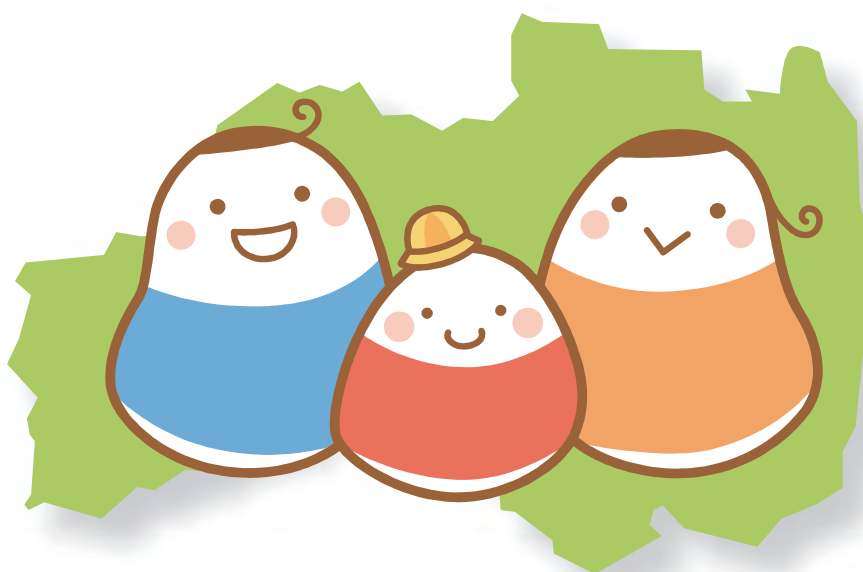


子どもの健康と環境に関する全国調査
エコチル調査

子どもの健康と環境に 関する全国調査 (エコチル調査)

活動報告書

令和7年度



エコチル★ふくしま

Eco&Child Fukushima

福島県立医科大学
エコチル調査福島ユニットセンター

目次

あいさつ 福島ユニットセンター長 橋本浩一	2
1 エコチル調査の概要	4
(1) 調査の目的	4
(2) 調査の内容	5
(3) 調査のスケジュール	5
(4) 福島ユニットセンターにおける調査概要	6
(5) 13歳以降の調査継続	7
2 調査の実績	8
(1) 全体調査の実施	8
ア 質問票調査	8
イ 学童期検査	9
ウ 乳歯調査	12
エ 疾患情報登録調査	13
オ 13歳以降調査	13
(2) 詳細調査の実施	14
(3) ゲノム・遺伝子解析研究	17
(4) 感染症対策	18
(5) 参加者への謝礼のお支払い	18
3 調査推進のための各種活動	20
(1) 広報・イベント活動	20
(2) 地域運営協議会	26
(3) 関係機関訪問	26
(4) 各種研修の実施	27
(5) 小冊子の発行	29
4 学術研究	30
5 資料編	35
令和7年度福島ユニットセンター組織図	35
エコチル調査福島ユニットセンターの沿革	36
エコチル調査協力医療機関・施設一覧	37
エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況	42
ニュースレターの発行	52

あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本 浩一

～将来の確かな果実のために～

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜り有難うございます。

平成 23 年 1 月に開始されましたエコチル調査は 16 年目に入りました。現在、調査対象のエコチルキッズは 12 歳から 15 歳となりました。福島ユニットセンター（UC）では出生数の約 92%にあたる 11,773 人が継続参加されています（令和 8 年 3 月現在）。改めまして、参加者、関係者皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。ここに令和 7 年度のエコチル調査福島 UC の活動状況を報告いたします。

“多くの医療機関のご協力”

対面調査として全対象者の 5 %を対象とした詳細調査と全員を対象とする学童期検査を福島県内の地域の基幹病院、個人病院合わせて約 50 か所の小児科医療機関にご協力のもと進めています。詳細調査は 2 歳から 2 年毎に約 600 人の児を対象に実施してきました。令和 7 - 8 年度は 12 歳の調査を進めています。小学 2 年生、6 年生の時に実施する学童期検査は令和 5 年度からは 6 年生を対象として実施しています。令和 5 年度、令和 6 年度、令和 7 年度、令和 8 年度、それぞれ全県下で 911 人、1,950 人、5,897 人、3,015 人が対象者となり、令和 7 年度は最多の人数を実施しました。医療機関関係者の皆さまには重ねて感謝申し上げます。

“双方向の調査を目指して”

主役である子ども達にエコチル調査への関心をさらに高めていただくとともに、県民の皆さまへの周知を目的として、“顔の見える”さまざまなイベントの開催やブース出展を行っています。参加者の親子と共に学ぶ環境セミナーとしては、7 月 13 日に三春町の「コミュタン福島」にて「親子で挑戦！自然と科学のふしぎ」を開催しました。続いて 10 月 5 日には郡山市のカルチャーパークにて「エコチル★ふくしま おやこでダンス教室」を開催しました。これらのイベントの様子は、動画で配信しています。さらに、5 月 5 日には郡山市の「子どもまつり」、11 月 2 日にはいわき市で開催された「いきいき健康づくりフォーラム」にブース出展し、多くの方々にご来場いただきました。

また、UC 独自のニュースレターを年間 3 回参加者に届けています。小学校高学年、そして中学生のエコチルキッズ向けの、子ども達が主役の紙面づくりを心掛けています。おもて表紙の“川柳”や“とっておきの写真”へは多くの参加者から応募いただいています。加えて、県内のプロスポーツ選手へのインタビュー、スポーツに関わるケガの解説などを掲載しています。

“ 成果の国内外への発信 ”

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かなエビデンスを社会に還元することです。世界では小児の成育環境に関する大規模疫学研究が 2011 年開始のエコチル調査のほか、1996 年からデンマーク、1999 年からノルウェーでそれぞれ開始されています。エコチル調査は最も新しい研究ですが、他の調査と比較して圧倒的に多くの新たな知見が論文としてまとめられ、世界へ発信されています。これまでに 500 編を超える英語論文が発表されており、当ユニットセンターからも約 80 編の論文を世界に向けて発信しています。また、エコチル調査の中心仮説である「化学物質の健康への影響」に関しては、当 UC から、令和 7 年度に 3 回のプレスリリースを行いました。これまでのエコチル調査に関する論文は、当 UC、または環境省のホームページからご覧いただけます。

“ 社会への還元 ”

最近、プレコンセプションケア（Preconception care）の重要性が説かれています。プレコンセプションケアとは将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。当ユニットセンターも含めエコチル調査全体からも関連する論文が多数発表されています。令和 6 年度からは、当ユニットセンターの産婦人科医師により、一般、母子保健関係者、高校生を対象にエコチル調査からの知見をもとにプレコンセプションケアに関するセミナー、出張授業を県内各地で開催しています。

“ 将来への準備 ”

当初 13 歳までの調査として計画されたエコチル調査ですが、40 歳を目途とする 13 歳以降の調査が令和 6 年度から本格的に開始されています。これまでは保護者のご理解と熱意に支えられてきた本調査ですが、13 歳以降の継続は子どもたちの本調査へのご理解、ご協力が重要であり大きな課題です。また、今後の成人の調査への展開に向けて内科医療機関との協力体制を整えてゆきます。

今後エコチル調査は、成人領域、そして両親・本人・本人の児の 3 世代コホート研究へ発展し、得られる果実がより大きくなることが期待されます。今後とも、関係者の皆さまの御理解と御協力のもと参加者とともに一步一步あゆみ続けて行きたいと存じます。よろしくお願いします。

令和 8 年 6 月

1 エコチル調査の概要

(1) 調査の目的

●エコチル調査とは

正式名称は「子どもの健康と環境に関する全国調査」です



エコチル調査は、環境省が企画・立案し、コアセンター（国立環境研究所）、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）を中心として、全国 15 地域に拠点としてのユニットセンターを設置し、実施している全国的な調査事業です。

環境中の科学物質や生活習慣などが子どもの健康や成長にどのように影響するのかを胎児から 13 歳になるまで追跡調査し、明らかにすることを目的としています。

平成 22 年から開始し、分析を含めると 20 年を超す事業ですが、未来に向け「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ために、大変重要なプロジェクトです。

●なぜ環境中の物質を調べるのでしょうか

ここ 50 年の間に、科学や技術は急速に発展し、私たちの暮らしはとても便利になり、またこれに伴って、様々な化学物質が身近に増えてきました。こうした人間が作り出した物質が、私たちや子どもたちの健康に、どのような影響や関係があるのか、実はまだ詳しく解明されていないのです。

●なぜ赤ちゃんがお腹にいるときから調べるのでしょうか

近年、ぜんそくやアレルギー疾患、肥満、発達障害などが、子どもたちに増加していると言われています。こういった事象から、子どもは成長段階にあり、大人より化学物質の影響を受けやすいのではないかと考えられるからです。

赤ちゃんがお腹の中にいるとき、お母さんの体には、貴重な情報がたくさんつまっています。子どもの病気が明らかになってからでは、その情報の多くが失われてしまっているのです。

●研究成果は子どもたちや次世代の人のために役立ってます

病気の多くは、遺伝的な性質、生活習慣、環境中の物質などが関係しあって起こります。これらの関係を明らかにすることができれば、病気の予防に役立つ政策を立てたり、子どもが健やかに育つための環境を整備したりすることができます。

子どもたちや次世代の人に健康で豊かな生活をおくってもらうために、今から対策を考え、問題があればそれを改善していかなくてはなりません。エコチル調査は、将来の人たちの健康づくりのために、大変大切な研究です。

(2) 調査の内容

13 歳になるまでの調査

全 体 調 査	◆質問票調査	妊娠中及び年 2 回 13 歳になるまで成長・健康・生活の様子について調べる
	◆学童期検査	小学 2 年生と 6 年生のお子さまを対象に成長や健康について調べる
	◆乳 歯 調 査	小学 4 年生のお子さまに乳犬歯を提供いただき化学物質を調べる
	◆疾患情報登録調査	質問票の回答より、エコチル調査が対象とする疾患をもつお子さんが治療を受けた医療機関の診断または治療の情報について調べる
詳 細 調 査	全体調査の一部（5%）の方にお願ひし、お子さまの健康と生活環境をより詳しく調べる 対象者：平成 25 年 4 月 1 日以降に生まれたお子さまのうち約 5,000 名	
	◆環 境 測 定	家庭内の化学物質やハウスダストなどを調べる
	◆医学的検査	子どもの健康状態や、成長・発達・アレルギーの体質などを調べる
	◆精神神経発達検査	専門の検査者などにより子どもの発達を調べる
ゲノム・遺伝子解析研究		妊娠出産時に同意のもとご提供いただき保存した試料を用い、化学物質の量や、健康、成長に関する情報などとゲノム・遺伝子情報との関連を検討する

※このほか、各ユニットセンター独自の「追加調査」が行われる場合がある。

(3) 調査のスケジュール



エコチル基本計画、研究計画書等をもとに福島ユニットセンターで作成

(4) 福島ユニットセンターにおける調査概要

ア 調査対象地域

県内全域を対象とする。全国のユニットセンターで県内全域は本県のみ。

●リクルート（参加登録）対象地域の推移

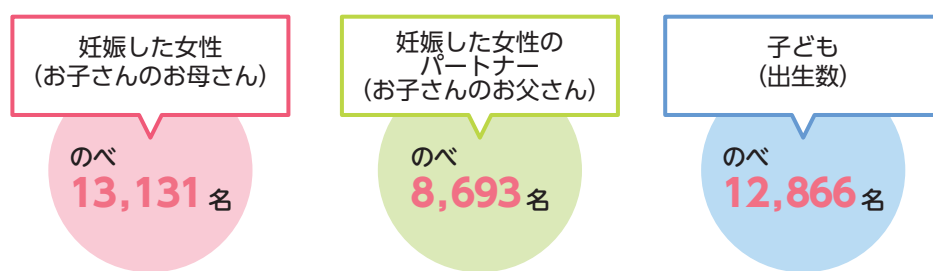
時期	対象地域
平成23年1月開始時	福島市、南相馬市、双葉郡（広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村） 計 10 市町村
平成23年6月以降	伊達市、桑折町、国見町、川俣町の4市町を追加 計 14 市町村
平成24年10月以降	県内全 59 市町村に拡大 計 59 市町村

※登録期間：平成23年11月～平成26年3月

イ 参加登録者数

全国の15ユニットセンターの登録者総数は約10万名おり、うち本県のリクルート時の登録者（妊婦）はのべ約13,000名で令和8年3月31日現在約11,773名の子どもが調査に参加しており、全国で最も多い参加者数（10%を超える割合）となっています。

●リクルート時の登録者数



妊娠した女性登録のカバー率※は**48.5%**でした。

※カバー率とは、対象地域で登録期間に出生したお子さんの人数に対する登録した妊娠した女性人数の占める割合です。

登録期間中に県内の妊婦さんのうちおよそ「2人に1人」が調査に参加してくれたんだね

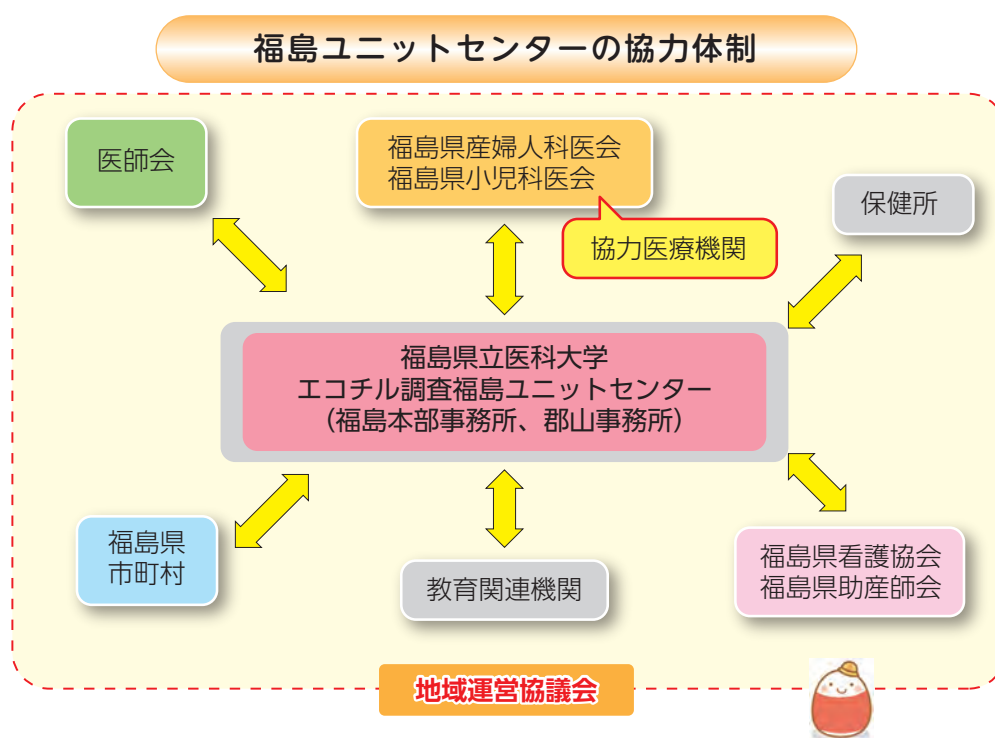


●年齢別エコチルキッズ数（令和8年3月31日現在の登録者数）

平成23年度生まれ（14歳）	平成24年度生まれ（13歳）	平成25年度生まれ（12歳）	平成26年度生まれ（11歳）	計
911 名	1,950 名	5,897 名	3,015 名	11,773 名

ウ 福島ユニットセンターの協力体制

エコチル調査の実施にあたっては、参加するお子さまとその家族はもとより、関係機関・団体の協力が不可欠です。そのため、地域運営協議会を設置して効果的な連携を促進することによりエコチル調査の円滑な遂行を図っています。



(5) 13 歳以降の調査継続

ア 環境省「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書

エコチル調査基本計画（2010）では、お子さまが 13 歳に達するまで調査を行う計画であったが、思春期以降に発症する疾病等（不妊症、精神神経疾患、生活習慣病等）や参加者の子どもの次の世代の子どもへの健康影響等を確認するためには、13 歳以降も調査を展開することが必要とし、エコチル調査を 40 歳程度まで継続するという方針が打ち出された（令和 4 年 3 月 29 日）。

イ エコチル調査基本計画の改定

環境省では、基本計画を改訂（令和 5 年 3 月 30 日）し、13 歳以降の調査継続が決定した。研究計画書は当面 18 歳までの調査を組入れた計画に改訂された。

ウ 13歳以降調査継続に関する代諾同意手続

令和 5 年度より小学 6 年生参加児の代諾者（保護者）を対象に、エコチル調査参加者ポータルサイトから電磁的方法によりお子さまが 18 歳に達するまでの調査継続について協力意思の確認を開始した。

エ 13歳以降の調査

ウの項で 13 歳以降の調査への協力に同意した参加児および代諾者を対象に、令和 6 年 4 月より Web 質問票を開始した。

2 調査の実績

(1) 全体調査の実施

ア 質問票調査

年2回、質問票を参加者宅へ発送し、回答いただいている。参加者が小学校入学後は、誕生月の年齢質問票と学校生活での状況を把握するための学年質問票を発送している。11歳と12歳の年齢質問票では、子ども自身が回答する「子どもアンケート」を配布している。

現在、質問票はユニットセンターで封入・発送作業を行い、参加者がユニットセンターに返送後、入力及びデータクリーニング作業を行っている。

質問票回答により得られた結果は、できる限り参加者に返却を行っている。令和7年度は12歳質問票回答より「子どもの食事・栄養の特徴」の結果を郵送にて返却した。

(ア) 質問票発送件数

令和7年度は、11歳と12歳までの年齢質問票と小学5年生と6年生までの学年質問票の計4種類、総計18,106部の質問票を発送した。(表1)

表1 令和7年度 質問票調査発送数 (令和8年3月末時点)

管轄	11歳	12歳	小学5年	小学6年	計
本部事務所	911	2,026	909	1,910	5,756
郡山事務所	2,096	4,228	2,085	3,941	12,350
計	3,007	6,254	2,994	5,851	18,106

(イ) 質問票回収状況

ユニットセンターでは、全質問票の平均回収率80%の維持を目標としている。令和8年3月30日現在の発送後6か月後の全質問票(24種類)回収率は、76.1%であった。回収率は、年齢が上がるにつれ徐々に低下傾向にある。(図1)

回収率維持を目指し、12歳年齢質問票はカスタマイズボールペン(5色用)キャンペーンとし、質問票を返送した場合に参加者が希望する5色ボールペンをカスタマイズできる特典とした。また学年質問票の返送依頼は回数を1回増やす等の取組を行った。

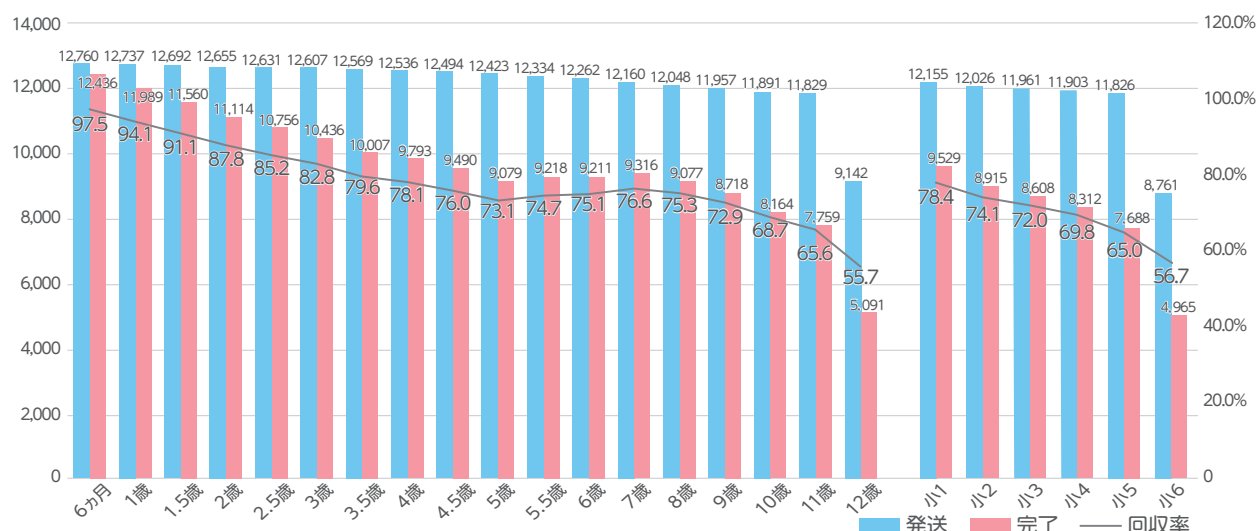


図1 質問票回収状況 発送後6か月後 (令和8年3月30日時点：実務担当者 Web 会議資料より)

(ウ) フォローアップ状況について

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。令和7年度末では92.2%であった(表2)。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニュースレターの発行、質問票返戻者へのプレゼントキャンペーンなどを実施している。

調査参加者が、福島県外へ転居する場合、対象地域となっているユニットセンターへの管轄変更又は質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続参加いただいている。調査参加者が住所不明となり、電話連絡が取れない場合は、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し、状況を把握しながら連絡を試みている。

令和7年度の子どもの調査協力取りやめ件数は51件(代諾者消失35件、住所不明12件、他4件)で代諾者消失の理由は、質問の回答が負担、健康状態の悪化、家庭環境の変化(仕事と家事の両立困難・離婚・死別等)により代諾者が協力を取りやめた。

表2 現行調査参加者ステータス

(令和5年3月末、令和6年3月末、令和7年3月末、令和8年3月末時点)

	転出	転入	本人死亡	代諾者消失	住所不明	その他	現参加者	現参加率 (転出入調整)
令和5年3月末時点	221	143	24	756	65	13	11,930	93.3%
令和6年3月末時点	238	146	25	801	66	13	11,869	92.9%
令和7年3月末時点	245	151	25	842	68	13	11,824	92.6%
令和8年3月末時点	249	152	26	877	80	13	11,773	92.2%

イ 学童期検査

(ア) 概要

これまでにご提供いただいた試料・データに、検査で測定した結果を加え、環境中の化学物質が子どもの成長や健康に与える影響について、より詳しく分析する調査を行っている。参加児に直接会って、調査で定められた機器・方法により検査を行う。令和4年度までは小学2年生のお子さまを対象に検査を4年間実施し、令和5年度からは小学6年生を対象に令和8年度まで4年間実施予定である。

年度別 学童期検査(小学6年生)対象者数(令和8年2月1日時点)

管轄	令和5年度 (平成23年度生)	令和6年度 (平成24年度生)	令和7年度 (平成25年度生)	令和8年度 (平成26年度生)
本部事務所	874	1,502	1,794	841
郡山事務所	41	457	3,742	1,961
年度計	915	1,959	5,536	2,802

a 検査方式

ユニットセンターでは予め検査日を設定し、参加者が予約登録して実施する集団健診方式で行った。実施される検査項目は、小学2年生時に行われた(a)身体測定:身長・体重・体組成(体脂肪率・筋肉量)(b)精神神経発達検査(CAT検査)の2項目に、(c)尿検査(d)問診(e)皮膚観察(f)血液検査の4項目が加わり、(f)血液検査については、全対象者の中でも希望者のみに対して実施した。

検査は (a) 身体測定 (b) 精神神経発達検査を行う日程と (c) 尿検査 (d) 問診 (e) 皮膚観察 (f) 血液検査を行う日程を作成し、2 回に分けて参加者を募集した (別日検査)。2 日 (別日検査) に参加するのが難しい参加者に対して、(a)～(f) が同時に行える枠を設定し施行した (同日検査)。

また、地域医療機関に検査協力を依頼し、(c)～(f) の検査について協力を得た。集団健診方式で日程の合わなかった参加者に対しては、直接日程を調整し実施する個別方式も取り入れ、(a) (b) の検査をユニットセンターで実施した。

(イ) 令和 7 年度実績

a 協力医療機関 今年度の調査開始時には、昨年度より協力が得られた 40 医療機関を訪問し、昨年度の概要を報告して再度調査協力と継続を依頼した。また、新たに 3 医療機関に調査への協力を依頼し承諾をいただいた。検査初回はユニットセンター職員が訪問して検査支援を実施した。

b 参加者への案内発送 令和 7 年 2 月 17 日 (月) 県中・県南地区
3 月 11 日 (火) 会津・いわき地区
3 月 14 日 (金) 相双地区
4 月 16 日 (水) 県北地区

今年度は対象者が 5,000 名を超えるため、開始時期にあわせて 4 回発送した。

c 予約受付期間 令和 7 年 2 月 17 日～令和 8 年 4 月 10 日

d 予約方法 Web・封書・電話申込の 3 種類を併用

e 検査期間 令和 7 年 3 月 18 日～令和 8 年 4 月 25 日 (14 ヶ月)

夏・冬季休暇は平日・土日も含めて、学校期間中は土日祝日に期間を設定した。

f 実施体制

集団健診方式での検査は検査業務を委託して実施し、ユニットセンター職員 3～4 名が会場責任者・受付業務、委託職員 3～7 名が受付・検査業務を担当し実施した。

協力医療機関での検査は、初回実施時にユニットセンター職員が訪問して検査支援を行い、2 回目以降は医療機関のみで実施している。事前に必要物品、書類一式を発送した。

g 実施会場

別日検査 (a) (b)

内訳) 自治体関係施設 (保健センターなど)	5 箇所	
民間施設	11 箇所	
福島本部事務所・郡山事務所	2 箇所	計 18 箇所

別日検査 (c)～(f)

内訳) 福島県立医科大学	1 箇所	
協力医療機関 県北地区	12 箇所	
県中地区	12 箇所	
会津地区	6 箇所	
県南地区	5 箇所	
いわき地区	4 箇所	
相双地区	4 箇所	計 44 箇所

同日検査 (a)～(f)

福島県立医科大学 (県北地区)	1 箇所	
星総合病院 (県中地区)	1 箇所	計 2 箇所

h 実施日数

令和7年3月18日～令和8年4月25日までの間、のべ313日間実施した。集団健診方式では1時間あたり5～6名、1日あたり14～35人の予約枠とした（1名ずつ10～15分間隔で受付を実施）。

協力医療機関での検査は各医療機関の意向を伺い、医療機関の希望に沿う形で日程・実施人数を調整した。

内訳

別日検査 (a) (b) 身体測定・精神神経発達検査

管轄	集団健診方式	個別方式	合計（日数）
福島本部事務所	19	4	23
郡山事務所	56	－	56
合計	75	4	79

集団健診方式内訳 学期中 57 日 長期休暇中 18 日

個別方式内訳 長期休暇中 4 日

別日検査 (c)～(f) 血液検査

管轄	ユニットセンター (集団健診方式)	医療機関 (のべ日数)	合計 (のべ日数)
福島本部事務所	14	127	141
郡山事務所	37	135	172
合計	51	194	313

ユニットセンター内訳 学期中 48 日 長期休暇中 3 日

医療機関内訳 学期中 157 日 長期休暇中 37 日

同日検査 (a)～(f)

管轄	ユニットセンター (集団健診方式)
福島本部事務所	10
郡山事務所	6

ユニットセンター内訳 学期中 14 日 長期休暇中 2 日

i 実施件数

身体測定・精神神経発達検査 2,025 件

血液検査 1,726 件

内訳

身体測定・精神神経発達検査

管轄	集団健診方式	個別方式	合計（件）
福島本部事務所	649	13	662
郡山事務所	1,363	－	1,363
合計	2,012	13	2,025

血液検査

管轄	ユニットセンター (集団健診方式)	医療機関	合計 (件)
福島本部事務所	240	357	597
郡山事務所	863	266	1,129
合計	1,103	623	1,726

令和 7 年度の検査実施率は 36.6%、血液検査実施率は 31.2%であった。

j 結果返却

- (a) (b) 身体測定 身長・体重・体組成（体脂肪率・筋肉量）を会場で直接返却した。
 (f) 血液検査 コアセンターが作成した結果報告書に説明用紙を添付し、検査実施後約 2 ヶ月を目安に郵送で返却した。

k ボランティア活動証明書の発行

参加者に対して、コアセンターが発行したボランティア活動証明書を (a) (b) の検査実施時、または (f) の結果返却にあわせて発送した。

(ウ) 令和元年～令和 4 年度実績（対象者は小学 2 年生）

	実施件数	実施率
令和元年度	531	57.1%
令和 2 年度	758	37.7%
令和 3 年度	2,290	40.4%
令和 4 年度	1,289	45.2%

(エ) 令和 5 ～ 6 年度実績（対象者は小学 6 年生）

	検査内容	実施件数	実施率
令和 5 年度	身体測定・CAT 検査	386	42.1%
//	血液検査	305	33.3%
令和 6 年度	身体測定・CAT 検査	748	38.2%
//	血液検査	650	33.2%

ウ 乳歯調査

参加児の脱落乳歯（犬歯）を分析することで、胎児期から乳幼児期それぞれに取り込んだ化学物質の情報を調べ、化学物質と子どもたちの成長や発達との長期的な関連を調査する。

(ア) 概要

〔対 象 者〕 エコチル調査全参加児のうち、乳歯調査協力確認ハガキによる協力意思表示者

〔調査内容〕 参加児が 10 歳（小学 4 年生）の時に乳犬歯 2 本及び調査票を提出いただく

〔調査スケジュール〕

平成 31 年 3 月～	乳歯調査協力確認ハガキにより、協力意思確認を開始
令和元年 12 月～	協力意思表示者に乳歯保管ケース・乳歯調査ブックの送付開始
令和 3 年 5 月 - 令和 4 年 9 月	平成 23 年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付
令和 4 年 5 月 - 令和 5 年 9 月	平成 24 年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付

令和5年5月 - 令和6年9月 平成25年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付
 令和6年5月 - 令和7年9月 平成26年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付

(イ) 令和7年度の福島ユニットセンターでの取組

- ①乳歯回収キット発送及び回収率向上の取組
 - 平成26年度生まれ対象者へ乳歯回収キットリマインドハガキの送付
 - ホームページでの資料掲載
- ②乳歯調査協力確認ハガキ回収率向上の取組
 - 対面調査時の協力確認
 - 電話連絡時（住所変更確認作業時等）の協力確認



乳歯回収キット回収状況（令和8年3月末時点）

対象者	発送数	回収数（協力率）
平成23年度生まれ	377	279 (74.0%)
平成24年度生まれ	752	531 (70.6%)
平成25年度生まれ	2,544	1,785 (70.1%)
平成26年度生まれ※	1,407	944 (67.1%)

※全対象者への対応完了は令和9年3月末まで

エ 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、エコチル調査で対象としている疾患（川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がん、精神神経発達など）について、お子さんの受けた診断、治療の内容、病状の経過など質問票では把握できない医学的な情報、かかりつけの医療機関から調査票を用いて提供していただく調査である。

返送いただいた質問票のご記入内容をもとに、ユニットセンターから、県内、県外のかかりつけの医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

令和7年度は、県内44件、県外21件の調査を実施した。

※協力医療機関については39ページに記載

オ 13歳以降調査

令和5年3月に13歳以降も40歳までエコチル調査を継続することが決定した。まずは、18歳までの協力意向を確認するため、令和5年6月より調査継続参加に伴う案内を郵送した（図1）。13歳以降調査はWeb質問票による回答となるため、専用システム「参加者ポータルサイト」へのログインをお願いし、保護者及び子どもそれぞれのアカウントより、年5回Web質問票への回答を依頼した。

13歳以降調査について継続的に参加・協力（表1）いただけるよう、案内ハガキの発送（図2）やプレゼントキャンペーンの実施、対面調査時の勧奨を行っている。

表 1 13 歳以降調査ステータス（令和 8 年 3 月末時点）

対象者	総数	親権者・積極的意思表示	親権者・継続者総数
平成 23 年度生まれ	906	395	785
平成 24 年度生まれ	1,932	905	1,931
平成 25 年度生まれ	5,838	2,605	5,838



図 1 13 歳以降調査説明書（子ども用）



図 2 13 歳以降調査案内ハガキ

(2) 詳細調査の実施

ア 詳細調査の概要

詳細調査では質問票だけでは得られない専門的な知見を得るため、また、客観的な評価指標により、エコチル調査全体の信頼性を高めるため、全体の 5 % の参加者を対象に 1) 訪問調査（環境測定）、2) 精神神経発達検査、3) 医学的検査を行っている。

全国 5,000 名の内、福島ユニットセンターでは 637 名に同意をいただき詳細調査を開始した。1 歳 6 か月・3 歳訪問調査（環境測定）、2 歳・4 歳精神神経発達検査・医学的検査、6 歳医学的検査、8 歳・10 歳精神神経発達検査・医学的検査が終了し 12 歳詳細調査の開始時点（令和 7 年 4 月）の参加者は 589 名だった。

イ 令和 7 年度の実績

令和 7 年度は 12 歳児を対象とした精神神経発達検査および医学的検査を実施した。12 歳詳細調査は、令和 7 年 4 月から令和 9 年 3 月まで約 2 年かけて実施する予定である。

(ア)12歳詳細調査 実施件数(令和8年3月末時点)

精神神経発達検査 269 件、医学的検査 261 件

欠測数 121 件 (表1 参照)

表1 12 歳詳細調査が欠測となった理由

理 由	人数	理 由	人数
連絡がつかない	50	無回答	5
子どもが拒否 (採血拒否)	21	子どもの負担になる	4
余裕がない (親)	15	その他	4
検査曜日・時間帯が合わない	9	仕事の都合	3
余裕がない (子)	9	体調不良	1

(イ)精神神経発達検査

<検査項目>

以下の3検査をパソコン、タブレットを使用し実施した。

- ・CPT (Conners CPT 3) …注意・集中の力をはかる
- ・FTT (Finger Tapping Test) …指先の器用さをはかる
- ・EL (Estimation Line) …数を見積もる力をはかる

<実施会場>

12 歳の精神神経発達検査では主に公共施設等を利用し実施した。

(自治体関係施設 10 か所、民間施設 1 か所、医療機関 1 か所、エコチル調査事務所 1 か所、大学)

<実施方法>

業務の一部を業者に委託し、1 日に約 15 名の検査を実施した。

(ウ)医学的検査

<検査項目>

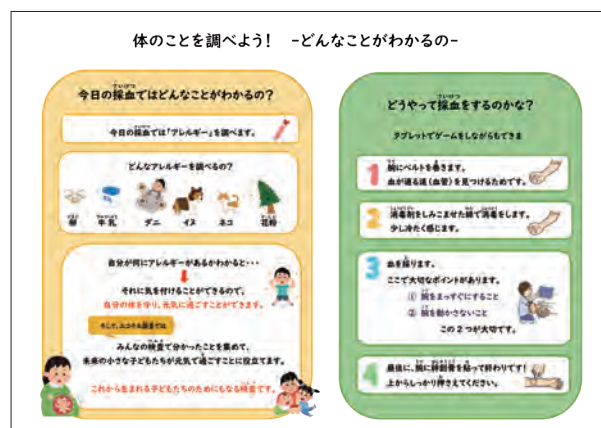
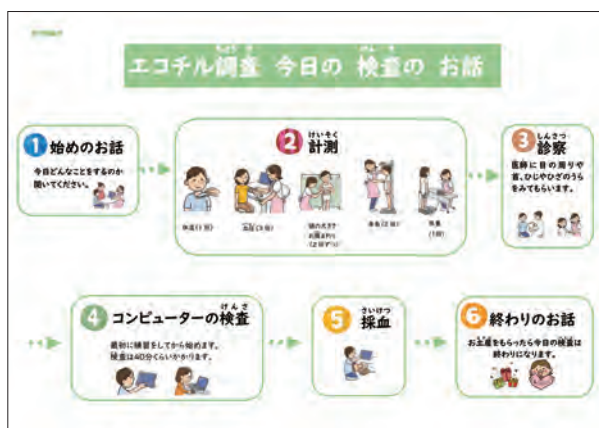
小児科医診察 (皮膚の観察)、身体測定 (身長、体重・体組成、頭囲、腹囲)、血圧測定、血液検査、尿検査

<検査を受ける子どもへの配慮>

12 歳の子どもの成長に合わせ、インフォームド・アセント※¹に基づき検査を実施し、採血を含む検査に対する子どもの意思を尊重した。そのため、より丁寧なプレパレーション※²を心がけた。また、治療の必要がない子どもに対して採血を行うにあたり、子どもの負担や痛みを軽減する方法の1つとして、参加児や保護者の希望および医師の判断に基づき局所麻酔剤を使用することもできた。それらの関わりの下、子どもが検査や採血に対して拒否の意向を表明した場合には、その意思を尊重し、原則としてその検査項目は実施しない方針で行った。

※1 インフォームド・アセント…小児の治療や検査などに対して、当事者の子どもに対してわかりやすく説明し、同意を得ること。

※2 プレパレーション…治療や検査、手術などの処置に関する内容や目的などを、医療行為を受ける子どもに説明すること。



<プレパレーション資料>

参加児に A4 サイズの資料で採血の目的と流れを説明した

<実施会場>

医学的検査では参加者の意向（検査時間や曜日の拡大）を踏まえ、基幹病院に加え、地域の個人医院（17 医療機関）を含む、県内全域の 31 医療機関に協力を得ている。

（協力医療機関一覧は「5 資料」の協力医療機関一覧 P38 を参照のこと）

基幹病院の一部では集団健診方式検査を導入し、個人医院では個別に医学的検査を実施した。

* 集団健診方式医学的検査 実施医療機関

福島県立医科大学附属病院、福島赤十字病院、星総合病院、白河厚生総合病院、竹田総合病院、いわき市医療センター

<結果返却>

身体計測値（身長・体重・体組成・頭囲・腹囲）、血圧、血液検査の結果を郵送で返却した。

血液検査：アレルギー関連項目、内分泌代謝（ホルモン）関連項目、糖代謝関連項目

(エ) 検査後のプレゼント

検査を実施していただいた参加者には蛍光ペン、新感覚折り紙パズルと、ボランティア活動証明書（コアセンター発行）を差し上げた。

(オ) 会議等の開催

詳細調査担当情報交換会

令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月 計 11 回

出席者：大学助手、リサーチコーディネーター

< 検査後のプレゼント >

医学的検査：蛍光ペン（5 色）

発達検査：折り紙パズル



(カ) 協力医療機関との情報共有

① 「エコチル☆詳細調査☆だより」の発行

「エコチル☆詳細調査☆だより」を発行し詳細調査の進捗状況等を協力施設にお知らせした。
（第 106 ～ 109 号発行）

② 医療機関訪問

（医療機関訪問は「3」（3）関係機関訪問 P27 を参照のこと）

ウ 過去の実績

(ア)これまで実施した検査項目

対象年齢 項目	1歳 6か月	2歳	3歳	4歳	6歳	8歳	10歳
訪問調査（環境測定）	○		○				
精神神経発達検査		○		○		○	○
医学的検査		○		○	○	○	○

(イ)訪問調査（環境測定）

1歳6か月、3歳に実施した。ユニットセンタースタッフ（2名程度）が1週間の間隔をおいて2回参加者の自宅を訪問し、以下の居住・生活環境について調べた。

- ・子どもの布団から採取したハウスダスト中のアレルギー物質
- ・掃除機から採取したダスト中の化学物質
- ・屋内と屋外で採取した空気中の粒子状物質や化学物質
- ・住宅環境や化学物質の使用状況

(ウ)精神神経発達検査

訓練を受けた検査者の面談により2歳、4歳に新版K式発達検査2001、10歳ではWISC-IV知能検査を実施した。8歳ではパソコン、タブレットを使用したCAT検査（認知機能評価）を実施した。

(エ)医学的検査

2歳、4歳、6歳、8歳、10歳に実施した。協力医療機関まで参加者にお越しいただき、医師による診察や血液検査を行うとともに、参加児の健康状態や成長発達について検査をした。

(オ)実施件数(人数)

対象年齢 項目	1歳 6か月	2歳	3歳	4歳	6歳	8歳	10歳
実施期間	平成26.11 ~28.8	平成27.4 ~29.1	平成28.5 ~29.12	平成29.4 ~31.1	令和元.5 ~3.2	令和3.4 ~5.1	令和5.4 ~7.2
訪問調査（環境測定）	637	—	576	—	—	—	—
精神神経発達検査	—	617	—	558	—	455	438
医学的検査	—	614	—	538	403	427※	421※

※発達検査会場で身体計測のみ実施した参加者は除いた人数

(3) ゲノム・遺伝子解析研究

エコチル調査ゲノム・遺伝子解析研究では、妊娠出産時に同意のもと、お子さま、お母さま、お父さまから提供いただき保管した試料を解析し、健康や成長、生体試料中の化学物質の量に関する情報などと、ゲノム・遺伝子情報などとの関連を検討する。令和4年2月下旬に参加者へ研究説明書を送付した。解析開始前に、オプトアウト方式で協力意思を確認し、令和4年9月より国立環境研究所で解析が開始された。

(4) 感染症対策

エコチル調査における感染防止を以下の通り実施した。

ア「感染症対策マニュアル」の整備

感染状況の動向に合わせ随時改定を行った。

- (改定) 第1版 令和2年7月31日 第1版を定例会で決定。
第2版 令和2年8月24日 感染拡大時の対応を追記。
第3版 令和2年9月28日 対面調査の中止後、再開時の報告部署を追記。
第4版 令和3年2月2日 学童期検査の1時間の実施人数の変更、精神神経発達検査の実施場所を追記。
第5版 令和4年2月14日 行動観察・健康観察期間の変更。学童期の同伴児枠、及び詳細調査のボランティア児研修説明を追記。
第6版 令和4年7月20日 マニュアル全体の見直し、修正。対応フロー図の修正。
対応表 令和5年6月1日 新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴うエコチル調査福島ユニットセンターの体制、対応。
第7版 令和7年2月10日 「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」から「感染対策マニュアル（主にCOVID-19・インフルエンザ）」とした。
「学校感染症の種類と出席停止期間の基準について」の資料を加えた。

イ 検査時の感染防止対策

対面調査では、エコチル調査福島ユニットセンターの「感染症対策マニュアル」に準じて検査を実施した。医療機関を会場とした医学的検査では、各医療機関に感染対策や参加者の参加条件を事前に確認し、それに準じて検査を実施した。

(5) 参加者への謝礼のお支払い

調査参加者への謝礼として当初は金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネー（nanacoポイント）による支払いに切り替えた。

なお、質問票調査では、13歳以降、紙質質問票からWeb質問票に変更され、同時に謝礼の支払い方法がnanacoポイントから「選べるe-ギフト」に変更となった。

ア 目的

母親参加者約13,000人に13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いをnanacoポイントに切り替えることとした。

平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝

礼においても nanaco ポイントによる支払いとした。また、令和元年7月より、小学2年生を対象とする学童期検査が開始され、その謝礼においても nanaco ポイントによる支払いとした。

なお、詳細調査では、令和5年4月から金券による謝礼の支払いを行い、小学6年生を対象とする学童期検査では、令和5年7月より金券による謝礼の支払い（医療機関での実施を除く）を行っている。

イ 対象者

同意書や質問票を回収した母親または父親について、累計で 12,240 名（令和8年3月末現在）に nanaco カードを発行し、謝礼をポイントとして付与した。

ウ その他

これまで nanaco カードの利用方法やポイントの有効期限について、発行時における取扱説明書の配付、ニュースレターでの定期的なお知らせ、カレンダーでの案内等により参加者全員に対し周知を図ってきた。

令和7年度は、令和6年度より引き続き nanaco カードの利用方法やポイントの有効期限について周知徹底を図るため、次の方法により注意喚起を行った。また、13歳以降の謝礼の支払い方法の変更に伴い、参加者へ随時、nanaco カードのサポート終了に関する周知を行った。

- ① 令和8年3月末までに nanaco ポイントが失効する可能性のある参加者へ案内はがきを送付【図1】
 - ② ホームページに「nanaco ポイント付与とサポート業務の終了について」の Q&A を掲載
 - ③ ニュースレター夏号に nanaco ポイントの有効期限、サポート終了のお知らせを掲載
- また、令和7年7月に同内容の案内チラシを小学6年生質問票に同封【図2】

**エコチル調査☆ふくしま
nanaco カードをお持ちの皆さまへ**

 **お急ぎください！！**
エコチル調査の謝礼のポイントが**失効する可能性**があります

2026年3月31日 までに
ポイントを電子マネーに交換してください

2024年4月1日～2025年3月31日付与分

【交換方法】
nanaco カード加盟店のレジで「センター預かり分のポイントを電子マネーに交換してください」とお伝えください。セブン銀行 ATM でも対応可能です。
※お知らせメールのご登録をすると便利です！

【登録方法】

 エコチル調査☆ふくしま nanaco カード裏面の**二次元コード**を読み取り、空メールをお送りください。

 登録完了後、nanaco ポイント付与時にお知らせメールが届きます。

★ご不明な点は、表面のお問い合わせ先へご連絡ください★

図 1

**小学6年生の参加者さまへ
nanacoカードに関する重要なお知らせ**

お子さまの小学校卒業とともに
謝礼とnanacoカードの取扱いが
変わります！



○謝礼の変更
13歳以降の調査を継続していただいた方は、専用アプリからWEB質問票に回答いただくこととなり、謝礼がnanacoポイントから『選べるe-GIFT』へ変更となります。

○nanacoカードへの謝礼の付与
お子さまの小学校卒業(2026年3月31日)をもちまして「エコチル★ふくしまnanacoカード」への謝礼付与を終了します。

○兄弟姉妹でカード共用の場合の取扱い
兄弟姉妹でエコチル調査に参加し、カードを共用している場合、下のお子さまが小学校を卒業するまで、そのカードを利用いただけます。

※小学校卒業後も引き続き「エコチル★ふくしまnanacoカード」を利用する場合、個人情報を登録していただくことにより、nanacoお問い合わせセンターのサポートを受けることができます。
【ナビダイヤル0570-071-555 または0422-71-2266「営業時間9:00～21:00」】

【エコチル★ふくしまnanacoカードに関するお問い合わせ】

詳しくは、福島ユニットセンターのエコチル★ふくしまホームページでご確認をお願いいたします。
また、ご質問やご不明な点があれば福島ユニットセンターまでお問い合わせください。
エコチル調査福島ユニットセンター
福島本部事務所 024-547-1449
郡山事務所 024-983-4780

エコチル★ふくしま
ホームページ
nanacoカードQ&A



図 2

3 調査推進のための各種活動

(1) 広報・イベント活動

ア ニュースレターの発行

2025 年夏号（令和 7 年 6 月）・2025 年秋・冬号（令和 7 年 11 月）、2026 年春号（令和 8 年 3 月）の計 3 回発行した。また参加者よりご応募いただいた、お子さまの「あなたの川柳大募集！！」を表紙に掲載した。さらに昨年に引き続き、「遊んで！学んで！エコチルキッズ」と題した子ども向け記事においては、各号県内のプロスポーツ選手のインタビューを掲載し、また「おしえて先生」など親子で学び楽しめる内容も提供した。

各号（参加者あて約 10,050 部、市町村等関係機関あて約 1,650 部、計 11,700 部）



2025 年夏号（令和 7 年 6 月発行）
2025 年秋・冬号から 2026 年春号は、資料編を参照

イ 活動報告書の作成

エコチル調査の毎年の活動状況を記録するとともに、調査にご協力いただいている行政機関、医療機関、教育関係機関など各分野の関係者への配布を通じ、調査への一層の理解促進と円滑な事業推進を図ることを目的とする。

(ア) 今年度の実績

令和6年度活動報告書を500部作成し、7月に地域運営協議会委員を含む関係機関・団体等に配布した。

(イ) これまでの実績

平成22、23、24年度版活動報告書として平成25年度に発行して以降、平成25年度版以降は、各年度の翌年度に発行している。

なお、令和2年度版からは分かり易い内容・構成に見直すとともに、従来のモノクロからフルカラーとするなど、全面的な見直しを行った。

ウ メールマガジンの配信

学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する「情報発信：エコチル調査」を計11回配信

発行	配信日	トピック	論文紹介（筆頭著者所属名）
第90号	令和7年5月29日	暑熱順化を進めましょう	放射線・抗がん剤に対する両親の職業性ばく露と死産・流産と形態異常のリスク（福岡ユニットセンター）
第91号	令和7年6月26日	教員を募集しています	妊娠中の抗菌薬服用と産後うつ症状との関連（千葉ユニットセンター）
第92号	令和7年7月31日	おやこでダンス教室2025の参加者募集！	母親が子どもと一緒に過ごす時のデジタルメディア使用時間と2歳児の神経発達との関連（福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター 尾形優香先生）
第93号	令和7年8月28日	研究成果のプレスリリース	妊娠中の自己申告による喫煙状況と尿中コチニン濃度によって分類した喫煙状況の常位胎盤早期剥離発症リスクの比較（福島県立医科大学 産科婦人科学講座 福田冬馬先生）
第94号	令和7年9月25日	動画公開「親子参加の環境セミナー」	妊娠中の母親の尿中コチニン濃度と新生児の甲状腺刺激ホルモンレベルとの関連（高知ユニットセンター）
第95号	令和7年10月30日	全国フォーラムが開催されます	妊娠中の喫煙が子どもの発達に及ぼす直接的・間接的な影響（コアセンター）
第96号	令和7年11月27日	参加者からのお便り	妊娠中の母親の尿中の有機リン系殺虫剤代謝物濃度と3歳までのぜん息との関連（福島県立医科大学 小児科学講座 前田創先生）
第97号	令和7年12月25日	プレスリリースしました	妊娠初期のPFASばく露と後期流産との関連（コアセンター）
第98号	令和8年1月29日	15周年を迎えました	妊娠中の母親のPFASばく露と4歳までの子どもの神経発達との関連（メディカルサポートセンター）
第99号	令和8年2月26日	成果・進捗報告会を開催します	妊婦の血中金属濃度と子どもの2歳までの尿路感染症の関連（北海道ユニットセンター）
第100号	令和8年3月26日	ノーベル化学賞 北川進先生による講演	母親のPFASばく露と4歳までの子どもの身体の成長との関連（千葉ユニットセンター）

エ イベント等の開催

(ア)環境セミナーの開催

「第8回エコチル★ふくしま環境セミナー」の実施

【目 的】①エコチル調査参加者の参加意欲の維持・向上を図る。

②体験プログラムや施設見学により、身近な環境問題についての関心を高める。

【開催日時】令和7年7月13日（日）10：00～12：30

【会 場】福島県環境創造センター（コミュタン福島）／福島県田村郡三春町

【対 象 者】エコチル調査参加者

【参加者数】17組 57名

【講 師】福島県環境創造センター 交流棟スタッフ

エコチル調査福島ユニットセンター センター長 橋本浩一先生

【内 容】1. エコチル調査でわかってきたこと

エコチル調査の概要及びエコチル調査でわかってきたことを説明するとともに、エコチル調査が13歳以降も継続となることをご理解いただいた。

2. 体験プログラム

1) 星砂ストラップをつくろう

2) ファラデーモーターをつくろう

3) コミュタン福島見学ツアー

体験プログラムの1)と2)で、海洋汚染とクリーンエネルギーについて学ぶとともに、施設見学をとおし福島の未来と環境問題について理解の醸成を図った。

第8回
エコチル★ふくしま環境セミナー
親子で挑戦！
自然と科学のふしぎ
in
コミュタン福島

開催日：2025年7月13日(日)10:00~12:30(予定)
場 所：コミュタン福島(環境創造センター交流棟)
参加対象：エコチル調査に参加しているお子さまとご家族さま
募集定員：30組(一家族4名まで) ※お申込者多数の場合は抽選となります。
申込方法：エコチル★ふくしまホームページからご応募ください。
申込期間：2025年3月14日(金)~6月12日(木)

●プログラム●

- ・「エコチル調査でわかってきたこと」の紹介
- ・体験プログラム① 星砂ストラップをつくろう
- ・体験プログラム② ファラデーモーターをつくろう
- ・コミュタン福島見学ツアー

※体験プログラムの作品はお持ち帰りいただけます。

お問合せ：024-983-4750（平日のみ 9:00～17:00）
福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター 郡山事務所



(イ) 全県イベント

「おやこでダンス教室 2025」の実施

【目 的】①調査参加者のモチベーションの維持・向上。

②県民に対しては調査の知名度向上を目指し、エコチル調査の成果を親しみやすく紹介し、社会貢献性の高い調査であることを周知する。

③健康への関心につながることを目的として、ダンス教室を行う。

【開催日時】 令和7年 10月5日（日） 10：30～12：30

【開催場所】 AGC エレクトロニクス郡山カルチャーパーク / 福島県郡山市

【参加者数】 小中学生等とその家族 28 組 91 名

【令和7年度実績】 福島ユニットセンター長から「エコチル調査でわかってきたこと」と題して福島県の最新の調査データや調査が13歳以降も継続されること等について説明し、県民への周知および参加者のモチベーションの維持を図ることができた。

また、ダンススクール講師による「おやこでダンス教室」を実施し、親子のふれあいの時間と運動への関心を高める機会を提供し、参加者アンケートでは高い満足度を得られたイベントとの評価を得ることができた。

<イベントチラシ>



<成果発表の様子>



<ダンス教室の様子>



オ 市町村イベントへの参加

(ア) 第60回郡山市こどもまつり

エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、郡山市が主催する第60回郡山市こどもまつりにコーナー出展し、活動内容や調査でわかったことなどについての広報活動を行った。

【開催日時】 令和7年5月5日（月・祝） コーナー運営 10：00～15：00

【会 場】 AGC エレクトロニクス郡山カルチャーパーク／福島県郡山市

【来場者数】 約4万人（主催者発表）

エコチル調査に関する資料の配布数：704部

【活動内容】 エコチル調査に関する掲示・説明等の広報活動

1. エコチル調査に関する資料の配布
2. 活動内容のパネル展示
3. シールアートの実施
4. コーナー来場者へのアンケートの実施



(イ) 令和7年度いきいき健康づくりフォーラムinいわき

エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、「令和7年度いきいき健康づくりフォーラム in いわき」において、エコチル調査のPR活動としてブース出展を行った。

【開催日時】 令和7年11月2日（日） 9：40 開場 コーナー運営 9：40～15：00

【会 場】 いわき市文化センター／福島県いわき市

【来場者数】 いきいき健康づくりフォーラム全体の来場者：約 1,700 人（主催者確認）

ブースでのエコチル調査に関する資料の配布数：104 部（参加者：2 組）

【活動内容】 エコチル調査に関する掲示・説明等の広報活動

1. エコチル調査に関する資料の配布
2. 活動内容のパネル展示
3. 握力測定の実施
4. アンケートの実施



カ その他の活動

(ア) グッズの配布

エコチル調査に継続参加していただくことを主たる目的として、全調査参加者にオリジナルカレンダーを贈呈した。また、エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、市町村等が主催するイベントや全県イベント等においてエコバッグやクリアファイル、ボールペン等を配布し広報に努めた。



(2) 地域運営協議会

ア 開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、福島県地域運営協議会の他、県内地域ごとに4つの協議会（県北・相双、県中・県南、会津、いわき）を設置し、各地域の医療、保育・教育、行政（市町村）の約200名の方々に委員を委嘱している。調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、各方面の様々なご意見を伺うことを目的とし情報交流の推進を図る。

なお、令和6年度からは、最上級学年の参加者が中学校に入学したことから、福島県中学校長会の参画を得ている。

イ 開催状況

令和7年度は、県域と各地域の協議会をハイブリッド形式により、次のとおり実施した。

協議会名	開催日	場 所
福島県地域運営協議会	令和7年 7 月 28 日	コラッセふくしま（福島市）
県北・相双地域運営協議会	令和7年 10 月 20 日	杉妻会館（福島市）
県中・県南地域運営協議会	令和7年 11 月 27 日	郡山ビューホテル
会津地域運営協議会	令和7年 10 月 1 日	会津若松ワシントンホテル
いわき地域運営協議会	令和7年 11 月 6 日	いわきワシントンホテル

ウ 議事内容

- 全国のエコチル調査の現状について（コアセンター）
- 本県でのエコチル調査の概要、調査の実施状況、イベント・広報活動、学術活動、令和6年度年次評価書について（福島ユニットセンター）

エ 意見聴取等

全般的には、概ね調査に対しての労い、調査の継続に期待する声が多かった。

調査結果・分析に対する期待、本調査の知名度アップのための広報活動の促進、年次評価の評価基準に関すること、今後の支援や協力体制について様々なご意見があった。

また、13歳以降調査継続協力者の維持、中学生が主体的に参加できる取組について、ご助言をいただいた。

(3) 関係機関訪問

訪問を通じてエコチル調査への理解と協力を求めるのを目的とする。

ア 市町村訪問

調査開始時には、県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりリクルートを中断した南相馬市及び双葉

郡 8 町村に対しては、調査開始時に対象地域であったことから、毎年訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査推進等について支援を依頼してきた。

今年度は、地域運営協議会の開催（オンライン、ハイブリッド）を通じて、活動状況等をお知らせし、理解と協力を求めた。

イ 協力医療機関訪問

詳細調査では新規で協力を依頼する医療機関 2 施設へ訪問し、説明、施設見学をした。また、令和 8 年 3 月より、12 歳詳細調査に協力いただいている医療機関を訪問し、令和 7 年度の実施状況の報告を行った。（令和 8 年 4 月にかけて 32 施設の訪問を予定）

学童期検査では、令和 5 年度より協力をいただいている 43 医療機関に対し、令和 8 年 1 月から 3 月にかけて全医療機関を訪問し、令和 7 年度の実施状況報告を行った。また、令和 8 年度に新規で協力を依頼する 3 医療機関の施設訪問を実施（令和 8 年 2 ～ 4 月）し、調査の説明と施設見学を行った。

ウ 教育関連機関訪問

（ア）今年度の実績

令和 7 年 6 月から 8 月にかけて県教育庁の各教育事務所と福島県小学校長会、中学校長会の関係者を訪問し、活動状況等をお知らせし、調査への理解と協力を求めた。

（イ）これまでの実績

平成 23 年度に出生した子どもたちが平成 30 年度から小学校入学を迎え、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めるため、平成 28 年度から教育事務所及び小学校長会、令和 6 年度からは中学校長会の関係者を訪問している。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元、2 年度は実施していない。

毎年、訪問時には、地域別に設置している福島県地域運営協議会委員就任について、各教育事務所長及び小学校長会、中学校長会役員の方々に依頼し、承諾をいただいている。

（4）各種研修の実施

ア 代行研修

令和 7 年度は、ユニットセンター職員等 25 名に対し、センター長・副センター長が講師として、「エコチル調査の概要、疫学研究の基本、環境、化学物質と健康」等の内容で入職時の研修を 5 回（令和 7 年 4 月 2 日、4 月 15 日、5 月 14 日、6 月 12 日、11 月 5 日）実施した。

これまでに実施した医療機関、市町村、ユニットセンター職員等に対する研修は、累計 105 回、受講者は累計 848 名となった。

イ 職員研修

ユニットセンター主催で全職員を対象に次の研修を実施した。

開催日	研修名	所管
令和7年5月8日 ～5月31日	AED 研修 (Web)	福島ユニットセンター
令和7年5月28日	職員研修 (前期) ・ユニットセンター長講話 ・リスク管理、個人情報の取扱い・情報管理 ・令和6年度年次評価 ・成果報告 「母親のデジタルメディア使用と2歳児の精神神経発達」 講師：医科大学助手 尾形優香	福島ユニットセンター
令和7年12月17日	職員研修 (後期) ・ユニットセンター長講話 ・個人情報の取扱い・情報管理、リスク管理 ・成果報告 「妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連」 講師：産婦人科学講座助手 小元敬大 ・環境ミニ講座 「基準の作り方 (PFAS を例に)」 講師：副センター長 倉谷英和 ・教養講座 「心と身体がリフレッシュできる運動療法 ～健康寿命延伸に向けて～」 講師：理学療法科 高橋仁美	福島ユニットセンター

ウ その他の研修

環境省、コアセンター、学内機関等主催の各種研修にも積極的に参加した。

<参加した主な研修>

開催日	研修名	所管
令和7年5月19日 ～23日 5月26日	コンプライアンス研修会 (飲酒運転防止)	大学コンプライアンス委員会
令和7年6月18日	ダイバーシティ推進員研修会	大学ダイバーシティ推進室
令和7年10月9日、 10日	ダイバーシティ推進職場研修会	大学ダイバーシティ推進室
令和8年2月4日	リクスコミュニケーションに関する研修会	環境省
令和8年2月12日	ハラスメント防止研修	大学事務局
令和8年3月4日 ～31日	コンプライアンス研修 (eラーニング)	大学コンプライアンス委員会

(5) 小冊子の発行

福島県における調査の回答結果の中から、子ども達の最近の生活の様子、育児を取り巻く環境、子育ての様子に関する項目をわかりやすくグラフ化し、わかってきたこととしてまとめたもので、令和7年6月に第3巻を発行した。

編集に当たっては、県内の教育関係機関と行政機関の方々へのアンケートを参考に集計項目を選定し、9歳までの現状をまとめ、参加者全員、地域運営協議会委員、協力医療機関、県内各小・中学校、図書館に配布した。

エコチル調査でわかってきたこと(福島 UC) vol.3

～ユニットセンター集計データリーフレット～

● 参加者及び関係者と、エコチル調査に寄せられたデータを共有する。

● 小学4年生までの集計結果(令和7年度発行)。

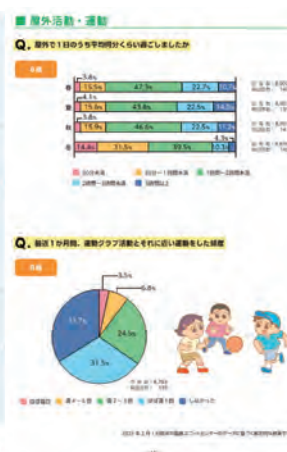
(教育関連機関及び行政機関委員のアンケート回答に基づき集計項目を選定)

小学生の生活の様子

- ・ 食生活
- ・ 歯の健康
- ・ 子どもの肥満
- ・ 屋外活動・運動
- ・ メディア
- ・ 睡眠
- ・ アレルギー

育児をとりまく環境

- ・ 家族の喫煙
- ・ 子育ての環境
- ・ 家事・育児の協力状況



4 学術研究

調査から得られた成果の発信、社会への還元の取組が期待されている。そのため、福島ユニットセンターでも継続して積極的に取組んだ。

(1) 学術活動実施体制

大学一体となって学術情報発信を推進するため、平成 27 年 4 月 6 日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ（以下、学術 WG）」を設置し研究活動を進めている。

令和 8 年 3 月 31 日時点で、学術 WG 構成員は学内 19 講座・センター等に所属する 88 名であった。

(2) 学術 WG 活動について

ア 定例勉強会の開催

令和元年度より、毎月 1 回、執筆予定の全国データを用いた研究課題に関する勉強会を開始した。令和 7 年度は計 6 回開催し、研究課題について検討した。

イ 令和 7 年度成果発表状況

(ア) 原著論文

6 歳時までの固定データを利用して論文執筆を進めた。令和 7 年度において、福島ユニットセンター学術 WG 構成員が全国データを用いて執筆した査読付き原著論文の受理件数は 9 編（うち、中心仮説に関する課題は 2 編）であった。

これまでに学術 WG 構成員が発表した査読付き原著論文の累計は 83 編となった。

(イ) その他

学会発表、講演等は 18 題行った。

(3) 成果発表の社会還元

ア エコチル調査からわかってきたこと エコチル調査★ふくしま版」第 5 号発行

エコチル調査データを用いて執筆された論文を紹介する「エコチル調査からわかってきたこと エコチル調査★ふくしま版」第 5 号（図 1）を発行し、参加者および調査関係者へ配付した。

イ 「エコチル調査からわかったプレコンセプションケア」講演

西郡秀和副センター長（産婦人科医）が県内外で一般・周産期医療関係者を対象として、調査で得られた知見の共有に取組んだ。

	対象者	日付	講演した集会	会場所在地
1	保健師及び関係者	令和7年4月25日	エコチル調査からわかったプレコンセプションケアの知見	郡山市
2	保健・衛生・医療事業関係者	令和7年8月28日	エコチル調査から見えてきたこと	福島市
3	医療機関、自治体、保健所、学校等関係者	令和7年11月26日	福島県で実施されている出生コホート研究から得られたDOHaD・プレコンセプションケアの最新知見	いわき市
4	保健師、助産師、看護師、医師、心理職、保健師など	令和7年12月15日	DOHaD 学説の現在地・基礎から最新情報まで	オンライン開催
5	保健師・助産師・栄養士等	令和8年2月18日	エコチル調査からわかったプレコンの最新知見	伊達市
6	高校生	令和8年2月20日	福島県立川俣高等学校保健体育授業 エコチル調査から分かった生まれてくる子どものための妊娠前から妊娠中の食生活の大切さ	川俣町

エコチル調査でわかってきたこと エコチル調査★ふくしま版 第5号

日頃よりエコチル調査へのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
みなさまにご協力いただいたエコチル調査データからこれまでに500編以上の論文が発表され、わかってきたことはお子さまの健康に役立てられています。未来の子どもたちが健やかに育つ環境の実現に向けて、引き続きご協力をお願いします。

母親のデジタルメディア使用と2歳児の発達との関連 (全国のデータを使用)
Ogata Y. et al. Scientific Reports. 2025

エコチル調査参加者の内、3,786組の母親のデータから、母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディア(携帯電話、タブレット、パソコンなど)を使用する時間(1日当たり)と、2歳児の発達(「運動の発達」・「認知の発達」・「言語の発達」)と3つの発達を合わせた「全体の発達」との関連を調べました。
「使用していない」グループを基準として、他の使用時間グループ(1時間未満、1時間以上2時間未満、2時間以上)と比較しました。各グループの割合は、「使用していない」15.4%、「1時間未満」63.2%、「1時間以上2時間未満」16.5%、「2時間以上」4.9%でした。

母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディアを使用する時間(1日当たり)	2歳児の発達
使用していないと比較して、1時間未満の使用	差が認められない
使用していないと比較して、1時間以上2時間未満の使用	言語の発達が低下
使用していないと比較して、2時間以上を使用	言語の発達、全体の発達が低下

※「運動の発達」・「認知の発達」・「言語の発達」の3つを合わせた発達

母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディアを使用していないグループと比較して、1日1時間未満を使用した場合、発達には認められませんでした。
一方で、1時間以上を使用した場合、言語の発達の低下との関連が認められ、2時間以上を使用した場合、全体の発達の低下との関連が認められました。
今回は2歳児を対象に検討しました。子どもの成長に伴う長期的な関連については、さらなる検討が必要です。

幼少期の子どもさまがいる母親にとって、デジタルメディアの使用は他者との交流、育児情報の入手など有益な側面があります。
スマートフォンなどを使用している時にお子さまから声がかかったら、向き合うことを大事にしてあげると、心に余裕を持ってデジタルメディアと付き合っていくことが大切になりそうです。

福島ユニットセンターの論文がプレスリリースされました

▶さい帯血中のカドミウム濃度と子どもの性比との関連
Omoto T. et al. Science of The Total Environment. 2025

▶さい帯血中の重金属(鉛、水銀、マンガン、セレン)濃度と子どものぜん息との関連
Maeda H. et al. Pediatric Allergy and Immunology. 2025

アンケートご協力のお願い
みなさまがご関心のあるテーマなど、ご意見をお聞かせください。
アンケートフォームからご回答をお願いします。

エコチル調査でわかってきたこと エコチル調査★ふくしま版 第5号

今回はエコチル調査福島ユニットセンターで調査にご協力いただいた、小学4年生時の保護者の方やお子さまご本人の質問票回答から、睡眠をテーマにお話しします。

睡眠時間は?
起床時間と就寝時間を回答いただき、その回答から算出しました。

平日よりも休日は長く寝ている子ども達が多いんだね。

平日	休日
2.4	2.3
43.8	19.2
50.3	51.6
3.4	23.5
0.1	0.5

※起床時間と就寝時間の差を算出した睡眠時間(単位:時間)の割合。回答数:平日6,218件、休日6,218件

より良い睡眠のためにどんなことが大切?
厚生労働省「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」より

朝は、しっかりと朝食を食べて、太陽の光を浴びる

昼は適度な運動をする

寝る前・布団の中でのTV・ゲーム機・スマホの使用を控える

寝る部屋は暗く、静かにし、心地よい温度にする

夕方からのカフェイン飲料の摂りすぎに注意する

カフェイン飲料: コーヒー、緑茶、ココア、エナジードリンクなど

授業以外で、運動を何回する?
※息切れしたり、汗をかいたりする運動

頻度	割合
月に1回未満	2.9%
月に1回	3.1%
週に1回	12.6%
週に2~3回	34.6%
週に4~6回	26.2%
毎日	13.8%
毎日以上	6.9%

回答数: 7,258件

寝る前(布団に入ってから含む)1時間以内にメディア機器を見る(操作)することがある?
※メディア機器: テレビやスマートフォン・ゲーム機など

頻度	割合
月に1回未満	13.9%
月に1~3回	4.9%
週に1回	6.3%
週に2~3回	20.5%
週に4~6回	15.8%
毎日	38.5%

回答数: 8,245件

速やかな運動は良い睡眠につながると思われる。一方で、寝る前に目を覚ましてスマートフォンなどのデジタル機器を使うと寝つきの悪さや睡眠の質の低下につながると思われる。デジタル機器を止めた場所に着いておくなど、ルールを決めておくことが大切だね。

みなさんはどうかな?
グラフは2026年1月20日までの福島ユニットセンターのデータをまとめた途中経過です。

図1 エコチル調査でわかってきたこと エコチル調査★ふくしま版第5号

(4) 学内関係者への成果・進捗報告会開催

令和8年3月11日 DOHaD の夜明け研究会との共催で、「エコチル調査成果・進捗報告会」(大学院授業要綱で規定する「共通必修科目(8)」として登録)をハイブリッド形式で開催した。第一部では「福島県におけるエコチル調査の実施状況」、第二部では「エコチル調査の研究成果」について3題報告した。また、橋本浩一福島ユニットセンター長より「母子免疫ワクチンによる感染症対策の新時代—エコチル調査からの示唆—」について講演した。参加者は現地参加、オンライン参加を含め33名であった。

(5) 令和7年度学術成果発表一覧

(ア) 掲載原著論文(令和8年3月31日時点)

● 全国データを用いた論文

1. 妊娠中の自己申告喫煙状況、尿中コチニン濃度によって分類した喫煙状況と常位胎盤早期剥離の発症リスクの比較
Fukuda T, Kyojuka H, Murata T, et al. Urinary cotinine levels versus self-reported smoking status for assessing placental abruption risk: the Japan Environment and Children's study. J Matern Fetal Neonatal Med. 2025 Dec;38(1):2497059. doi: 10.1080/14767058.2025.2497059.
2. 硬膜外無痛分娩と3歳時点での自閉症スペクトラム障害の関連について：エコチル調査
Fukuda T, Kyojuka H, Murata T, et al. Labor epidural analgesia and autism spectrum disorder in 3-year-old offspring based on data from the Japan Environment and Children's Study: a prospective cohort study. J Matern Fetal Neonatal Med. 2025 Dec;38(1):2509147. doi: 10.1080/14767058.2025.2509147.
3. 重金属と子どものぜん鳴
Maeda H, Hashimoto K, Iwasa H, et al. Heavy metal and childhood wheezing: The Japan Environment and Children's Study. Pediatr Allergy Immunol. 2025 Jul;36(7):e70144. doi: 10.1111/pai.70144.
4. 母親尿中有機リン系農薬代謝物濃度と3歳までのぜん鳴との関連について：エコチル調査
Maeda H, Hashimoto K, Fukuda T, et al. Association Between Maternal Urinary Metabolites of Organophosphate Pesticides During Pregnancy and Wheezing up to 3 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study. Clin Exp Allergy. 2026 Jan;56(1):85-88. doi: 10.1111/cea.70133.
5. エコチル調査における帝王切開と乳児のぜん息とアトピー性皮膚炎の関連
Maeda H, Hashimoto K, Iwasa H, et al. Association of cesarean section with asthma and atopic dermatitis in infants from the Japan Environment and Children's Study. Sci Rep. 2025 Nov 12;15(1):39700. doi: 10.1038/s41598-025-23252-z.

6. 妊娠前ボディマス指数 (BMI) と妊娠高血圧症候群の関連
Murata T, Imaizumi K, Isogami H, et al. Pre-pregnancy body mass index range and prevalence of hypertensive disorders of pregnancy: the Japan environment and children's study. BMC Pregnancy Childbirth. 2025 Dec 17;26(1):69. doi: 10.1186/s12884-025-08459-2.
7. 母親の妊娠中および産後の精神的ジストレスと 6 歳児の自閉症スペクトラム障害
Nishigori H, Nishigori T, Kyojuka H, et al. Sex-specific associations between maternal prenatal and postnatal psychological distress and autism spectrum disorder in the Japan Environment and Children's Study. Sci Rep. 2026 Feb 2;16(1):6899. doi: 10.1038/s41598-026-37212-8.
8. 母親のボンディング障害と児の神経発達 (ASQ-3)
Nishigori T, Nishigori H, Sato A, et al. Association between maternal bonding difficulty and neurodevelopmental delay in children aged 2 to 4 years: the Japan Environment and Children's Study. J Dev Orig Health Dis. 2026 Mar 31;17:e16. doi: 10.1017/S2040174426100476.
9. 臍帯動脈 pH と 3 歳時の神経発達について
Kyojuka H, Murata T, Omoto T, et al. Association between umbilical cord arterial pH and neurodevelopment of offspring at the age of 3 years: The Japan environment and Children's study. Int J Gynaecol Obstet. 2025 Oct;171(1):246-255. doi: 10.1002/ijgo.70179.

(イ) 学会発表・講演等

1. 西郡秀和 「エコチル調査からわかった知見」
第 1 回郡山市母子保健従事者研修 (2025 年 4 月 25 日、郡山市)
2. 藤森敬也 「県立大野病院事件と放射線災害がもたらしたもの - 福島のリジリエンス -」
第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会 特別講演会 7 (2025 年 5 月 24 日、岡山市)
3. 郷勇人 「新生児分野での臨床・疫学・基礎研究で見えてきたこと」
日本小児科学会山形地方会 (2025 年 5 月 25 日、山形市)
4. 西郡秀和 「エコチル調査から見えてきたこと」
第 5 回福島市保健業務研修会 (2025 年 8 月 28 日、福島市)
5. 西郡秀和 「エコチル調査からみえる妊婦の栄養に関する最新知見は？」
産科と婦人科 92 巻, 10 号 (2025 年 10 月 1 日)
6. 西郡秀和 「福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター 開設 10 周年記念講演」
(2025 年 10 月 6 日、福島市)
7. 橋本浩一 「新たな時代へ踏み出した RSV 感染症診療」
第 24 回東北臨床感染症研究会 特別講演 2 (2025 年 10 月 18 日、仙台市)
8. 橋本浩一 「RS ウイルスワクチン」
第 57 回 小児感染症学会シンポジウム 11 新しいワクチン up to date (2025 年 11 月 8 日、浦安市)
9. 倉谷英和 「人口減少・縮退地域における持続的な水道について～水道事業の現状と課題、基盤強化の取り組み～」
令和 7 年度 北海道大学大学院共通講義「地域創生学総論」(2025 年 11 月 7 日、札幌市)

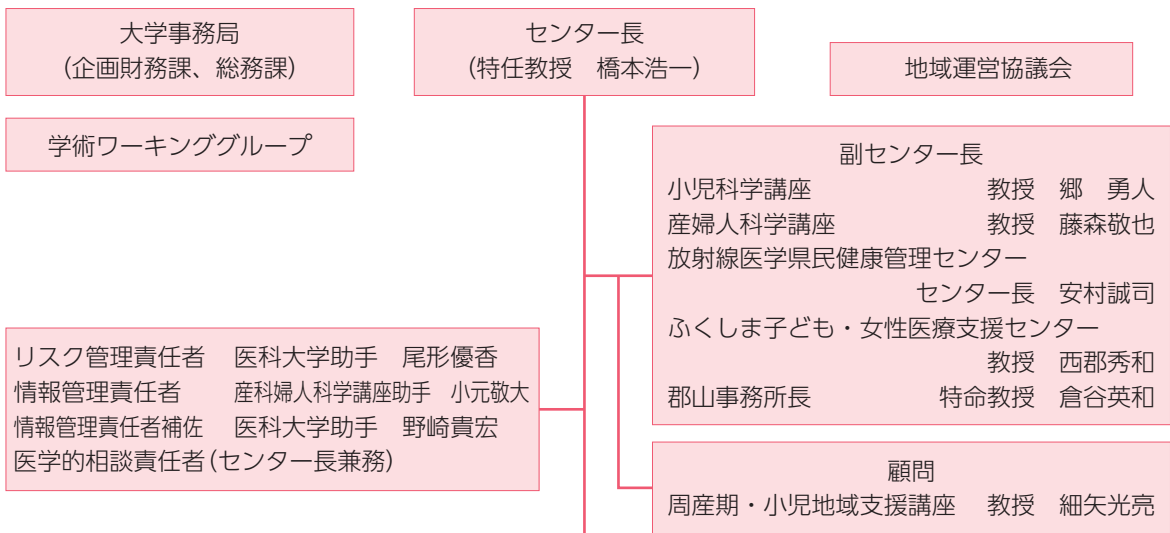
10. 橋本浩一 「RS ウイルス感染症の現状の課題とワクチン、抗体製剤開発の歴史」
第 69 回日本新生児成育医学会・学術集会（2025 年 11 月 13 日、横浜市）
11. 西郡秀和 「福島県で実施されている出生コホート研究から得られた DOHaD・プレコンセプションケア最新知見」
第 5 回 浜通り地区 ふくしま子ども・女性医療支援センター講演会（2025 年 11 月 26 日、いわき市）
12. 西郡秀和 「DOHaD 学説の現在地ー基礎から最新情報までー」
2025 年度日本 DOHaD 学会・日本家族計画協会 共催セミナー（2025 年 12 月 15 日、オンライン開催）
13. 橋本浩一 「母子免疫ワクチンによる感染症対策の新時代ー RSV 感染症を中心にー」
第 114 回県南小児科医会 総会・学術講演会（2026 年 1 月 29 日、郡山市）
14. 橋本浩一 「Transplacental Transfer and Correlates of RSV Neutralizing and Epitope-Specific Antibodies in Term Mother-Infant Pairs」
第 9 回 RSV ワクチン国際会議 RSVVW26（2026 年 2 月 17 日、イタリア）
15. 西郡秀和 「エコチル調査から分かった生まれてくる子どものための妊娠前から妊娠中の食生活の大切さ」
福島県立川俣高校保健体育授業（2026 年 2 月 20 日、川俣町）
16. 西郡秀和 「エコチル調査からわかったプレコンセプションケアの最新知見」
伊達市健康福祉部健幸づくり課地域活動研修会（2026 年 2 月 28 日、伊達市）
17. 橋本浩一 「乳児における RS ウイルス感染症の疾病負荷と予防の重要性」
東北エリア RSV 感染症予防 Web セミナー（2026 年 3 月 13 日、仙台市）
18. 橋本浩一 「母子免疫ワクチンによる感染症対策の新時代」
社会保険診療報酬支払基金福島 令和 7 年度 学術講演会（2026 年 3 月 29 日、福島市）

5 資料編

令和7年度福島ユニットセンター組織図

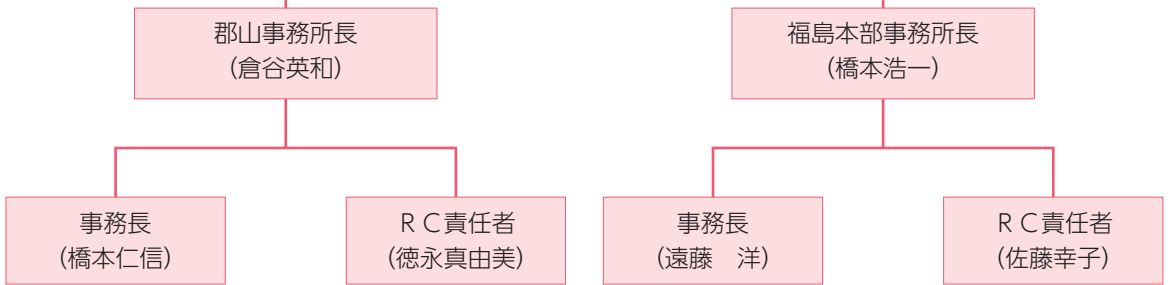
(令和8年3月31日現在)

福島県立医科大学



郡山事務所

福島本部事務所



【担当地域】

県中地域、県南地域
いわき地域、会津地域

【担当地域】

県北地域、相双地域

※事務局専任職員 44 名 (教員 3 名 事務 19 名 RC 22 名)

- ・ 福島本部事務所 23 名 (教員 2 名 事務 10 名 RC11 名)
- ・ 郡山事務所 21 名 (教員 1 名 事務 9 名 RC11 名)

エコチル調査福島ユニットセンターの沿革

H22.1.12 ～ 15	環境省、ユニットセンターを全国に公募
H22.3	環境省、「子供の健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）基本計画」を公表 コアセンター（独立行政法人国立環境研究所）、エコチル調査を開始
H22.4.12	環境省、本県を含む全国 15 ユニットを選定
H22.11	福島県立医科大学において福島ユニットセンターが本格稼働 （センター長：安村誠司、執務室：公衆衛生学講座研究室）
H23.1	R C 職員を配置、エコチル調査の参加者登録（リクルート）開始 調査対象地区は、福島市、南相馬市、双葉郡の計 10 市町村
H23.3.11 ～	東日本大震災と東京電力福島第 1 原子力発電所事故の発生
H23.4.19	調査地区拡大（伊達市、伊達郡 3 町）に関するコアセンターヒアリング
H23.5.9	コアセンター運営委員会、調査地区拡大について承認
H23.5	福島本部事務所を 10 号館 5 階（旧カルテ庫）に整備
H23.6.7	伊達市及び伊達郡 3 町（桑折町、国見町、川俣町）のリクルート開始
H24.4	調査対象地域拡大等のため職員を増員（事務 8 人、R C 6 人）
H24.5.1	福島市内に新町オフィスを開設
H24.6	本県の調査対象地域を県内全域に拡大することを決定 （環境省の予算、人的サポートのほか国の主体的活動、各種支援業務の実施が前提）
H24.7	橋本浩一センター長の体制に移行
H24.8	副センター長兼郡山事務所長（環境省より出向）、次長兼郡山事務所事務長（郡山市 OB）を配置
H24.9	郡山事務所を開所し、その支所を白河市、会津若松市、いわき市に設置
H24.9.4	10 月からのエコチル調査全県化について記者発表
H24.10	調査対象地域を県内全 59 市町村に拡大、リクルート開始 職員を増員（平成 25 年度の人員体制：職員約 60 人、派遣職員約 10 人）
H25.6	事務局長兼福島本部事務所事務長（福島県 OB）を配置
H25.10	次長兼会計責任者（福島市 OB）、郡山事務所 RC 責任者を配置
H26.3	参加者登録（リクルート）の終了 参加者謝礼として電子マネー（nanaco）を導入
H26.10	詳細調査のリクルート開始
H26.11	詳細調査のうち訪問調査（生活環境調査）を開始
H26.12	11 月末で郡山事務所の 3 支所を廃止、協力医療機関における常駐業務も終了 これに伴い郡山事務所の職員数を縮減（平成 26 年度末は本部事務所と合せ職員 39 人）
H27.4	詳細調査のうち医学的検査・精神神経発達検査を開始 大学事務局（企画財務課）から職員を配置
H27.10	プロジェクト教員を配置
H29.1.30	1 月 29 日で新町オフィスを閉鎖し、現在の場所に業務を集約
H31.4	全体調査のうち学童期検査（小学校 2 年生対象）を開始
R 2.2	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面調査を中止 （再開：学童期検査 8 月、詳細調査 9 月、その後も感染状況を踏まえ弾力的に対応）
R 3.6	令和 3 年福島県沖地震で被災した郡山事務所を移転
R 4.7	参加者が 18 歳に達する令和 14（2032）年度まで、ユニットセンターの設置・運営の継続を決定
R4.10	血液検査に各地域の協力医療機関での集団健診方式を導入
R 5.4	全体調査のうち学童期検査（小学校 6 年生対象）を開始し、予約システムを導入

エコチル調査協力医療機関・施設一覧 (令和8年3月31日現在)

1) 協力医療機関 (リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

	エリア	協力医療機関・協力施設名	所在地	担当	
1	県北	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所	
2		医療法人 明治病院	福島市		
3		医療法人 いちかわクリニック	福島市		
4		医療法人 ささや産婦人科	福島市		
5		(医)ABCクリニック 新妻産婦人科	福島市		
6		本田クリニック産科婦人科	福島市		
7		済生会福島総合病院	福島市		
8		一般財団法人大原記念財団 大原総合病院	福島市		
9		公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市		
10		大川レディースクリニック	福島市		
11		菅野産婦人科医院	福島市		
12		セイントクリニック	伊達市		閉院
13		二本松ウイメンズクリニック	二本松市		
14		社会保険福島 二本松病院(現:JCHO二本松病院)	二本松市		平成25年3月31日終了
15		渡辺医院	二本松市		
16		医療法人 慈久会 谷病院	本宮市		
17	相双	医療法人 あらき産婦人科クリニック	相馬市	福島本部 事務所	
18		南相馬市立総合病院	南相馬市		
19		レディースクリニックはらまち	南相馬市		
20		西潤マタニティクリニック	南相馬市		
21		原町中央産婦人科 (現:南相馬中央医院)	南相馬市		
22		医療法人社団青空会 大町病院	南相馬市		
23		双葉厚生病院	福島市飯坂		
24		今村クリニック	双葉郡浪江町		
25		公立相馬総合病院	相馬市		新生児搬送時の検体採取のみ
26	県中	たなかレディースクリニック	郡山市	郡山 事務所	
27		医療法人 岡崎産婦人科(現:岡崎バースクリニック)	郡山市		
28		公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	郡山市		
29		塚原産婦人科内科外科医院	郡山市		
30		トータルヘルスクリニック	郡山市		
31		一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市		
32		公益財団法人 星総合病院	郡山市		
33		一般財団法人脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院	郡山市		
34		古川産婦人科医院(現:かつこウイメンズクリニック)	郡山市		
35		独立行政法人国立病院機構 福島病院	須賀川市		
36	県南	小森山産婦人科医院	須賀川市	郡山 事務所	閉院
37		片倉医院産科婦人科	白河市		
38		福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市		
39		福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院	塙町		
40	会津	岩佐医院	茨城県久慈郡	郡山 事務所	福島県民のみリクルート
41		舟田クリニック産科婦人科	会津若松市		閉院
42		一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市		
43		一般財団法人温知会 会津中央病院	会津若松市		
44	いわき	福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生病院	会津坂下町	郡山 事務所	
45		医療法人栄真会 村岡産婦人科医院	いわき市		
46		渡辺産科婦人科	いわき市		
47		かたよセクリニック産科・婦人科 (現:医療法人かたよセウイメンズクリニック)	いわき市		
48		NOBU マタニティクリニック	いわき市		転院による検体採取のみ
49		いわき市立総合磐城共立病院(現:いわき市医療センター)	いわき市		
50		森田泌尿器科産婦人科医院(現:森田泌尿器科医院)	いわき市		
51		つくだ町産婦人科医院	いわき市		閉院
52		月川レディースクリニック	いわき市		
53		佐藤マタニティー・クリニック	いわき市		

2) 詳細調査協力医療機関および協力施設 ■ は令和7年度協力医療機関

	エリア	協力医療機関・協力施設名	所在地	担当
1	県北	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市	福島本部 事務所
2		一般財団法人大原記念財団 大原総合病院	福島市	
3		公立藤田総合病院	国見町	
4		日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	
5		医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
6		医療法人 いちかわクリニック	福島市	
7		医療法人 おひさま子供クリニック	福島市	
8		医療法人武田小児科	伊達市	
9		土川内科小児科	二本松市	
10	相双	公立相馬総合病院	相馬市	
11		医療法人 慧生会 菜のはなこどもクリニック	相馬市	
12	県中	一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	郡山 事務所
13		公益財団法人 星総合病院	郡山市	
14		独立行政法人国立病院機構 福島病院	須賀川市	
15		医療法人はぐくみ いいもり子ども医院	郡山市	
16		医療法人 健生会 おおがもこクリニック	郡山市	
17		医療法人 おおのこどもクリニック	郡山市	
18		医療法人 かわなこどもクリニック	郡山市	
19		医療法人仁寿会 菊池医院	郡山市	
20		医療法人 久米こどもクリニック	郡山市	
21		医療法人英徳会 さかい小児科クリニック	郡山市	
22		医療法人喜信会 じんキッズクリニック	郡山市	
23		医療法人宣誠会 すみこしこどもクリニック	郡山市	
24	県南	福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市	
25		福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院	塙町	
26		医療法人健恵会 ねもとキッズクリニック	白河市	
27		医療法人 わたなべ子どもクリニック	白河市	
28	会津	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
29		福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院	会津坂下町	
30		医療法人 いたう子どもクリニック	会津若松市	
31		医療法人清信会 やまみこどもクリニック	会津若松市	
32	南会津	福島県立南会津病院	南会津町	
33	いわき	いわき市医療センター	いわき市	
34		子どもの家	いわき市	
35		第二子どもの家M・A・Y	いわき市	
36		あおぞらキッズクリニック	いわき市	
37		医療法人 森のこどもクリニック	いわき市	
38		医療法人 おおはらこどもクリニック	いわき市	

3) 疾患情報登録協力医療機関 ■ は令和7年度協力医療機関

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1	県北	一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院	福島市	福島本部 事務所
2		公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市	
3		福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院	福島市	
4		日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	
5		医療法人 湖山荘 あずま通りクリニック	福島市	
6		医療法人 慶愛会 文化通りやぎうちクリニック	福島市	
7		福島県中央児童相談所	福島市	
8		医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
9		いがらしキッズクリニック	福島市	
10		ほりこし心身クリニック	福島市	
11		すえなが内科小児科医院	福島市	
12		公立藤田総合病院	国見町	
13		こばやし子ども・内科クリニック	伊達市	
14		医療法人 湖山荘 福島松ヶ丘病院	伊達市	
15		医療法人 クラプトン 佐久間内科小児科医院	二本松市	
16		森小児科医院	二本松市	
17		医療法人 落合会 東北病院	本宮市	
18	相双	すぎやまこどもクリニック	相馬市	郡山 事務所
19		公立相馬総合病院	相馬市	
20		公益財団法人 金森和心会 雲雀ヶ丘病院	南相馬市	
21		ほりメンタルクリニック	南相馬市	
22		公益財団法人 星総合病院	郡山市	
23	県中	福島県総合療育センター	郡山市	
24		公益財団法人 金森和心会 針生ヶ丘病院	郡山市	
25		一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	
26		医療法人 稔聖会 こおりやまほっとクリニック (閉院)	郡山市	
27		医療法人 慈圭会 すがのクリニック	郡山市	
28		社会医療法人 あさかホスピタル	郡山市	
29		公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	郡山市	
30		一般財団法人 太田総合病院附属 太田熱海病院	郡山市	
31		一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院	郡山市	
32		一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 南東北医療クリニック	郡山市	
33		わんぱくさいとうこども医院	郡山市	
34		医療法人 明信会 今泉西病院	郡山市	
35		医療法人 喜信会 じんキッズクリニック	郡山市	
36		公立岩瀬病院	須賀川市	
37		独立行政法人 国立病院機構 福島病院	須賀川市	
38	県南	福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市	
39		福島県立矢吹病院 (現: 福島県立ふくしま医療センターこころの杜)	矢吹町	
40	会津	公立大学法人 福島県立医科大学 会津医療センター	会津若松市	郡山 事務所
41		一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
42		医療法人 明精会 会津西病院	会津若松市	
43		一般財団法人 温知会 会津中央病院	会津若松市	
44		医療法人 昨雲会 飯塚病院	喜多方市	
45		福島県立南会津病院	南会津町	
46	いわき	公益財団法人 磐城済世会 舞子浜病院	いわき市	
47		いわき市医療センター	いわき市	
48		おおはらこどもクリニック	いわき市	

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当
49	県外	公立昭和病院	東京都	福島本部 事務所
50		生育医療研究センター	東京都	
51		順天堂大学医学部附属 練馬病院	東京都	
52		東京北医療センター	東京都	
53		山形大学医学部附属病院	山形県	
54		茨城県立こども病院	茨城県	
55		自治医科大学附属病院	栃木県	
56		新潟県立中央病院	新潟県	
57		仙台医療センター	宮城県	
58		仙台赤十字病院	宮城県	
59		東北大学病院	宮城県	
60		東北文化学園大学 総合発達研究センター附属 国見の杜クリニック	宮城県	
61		宮城県立こども病院	宮城県	
62		十和田市立中央病院	青森県	
63		岩手県立胆沢病院	岩手県	
64		あいだクリニック	青森県	
65		都城市郡医師会病院	宮崎県	
66		伊豆医療福祉センター	静岡県	
68		国際医療福祉リハビリテーションセンター なす療育園	栃木県	
69		横浜戸塚地域療育センター	神奈川県	
70		国際医療福祉大学 那須医療センター	栃木県	

4) 学童期検査協力医療機関 ■ は令和7年度協力医療機関

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1	県北	一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院	福島市	福島本部 事務所
2		日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	
3		公立藤田総合病院	国見町	
4		医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
5		医療法人 いちかわクリニック	福島市	
6		医療法人 おひさま子供クリニック	福島市	
7		きらり健康生活協同組合 とやのクリニック	福島市	
8		都小児科医院	福島市	
9		すやまキッズクリニック	福島市	
10		おだニコニコこどもクリニック	福島市	
11		大原こどもクリニック	福島市	
12		とみたキッズクリニック	福島市	
13	相双	公立相馬総合病院	相馬市	
14		南相馬市立総合病院	南相馬市	
15		すぎやまこどもクリニック	相馬市	
16		医療法人 慧生会 菜のはなこどもクリニック	相馬市	
17	県中	一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	郡山 事務所
18		公益財団法人 星総合病院	郡山市	
19		独立行政法人 国立病院機構 福島病院	須賀川市	
20		医療法人はぐくみ いいもり子ども医院	郡山市	
21		医療法人 かわなこどもクリニック	郡山市	
22		医療法人 久米こどもクリニック	郡山市	
23		医療法人 英徳会 さかい小児科クリニック	郡山市	
24		医療法人 喜信会 じんキッズクリニック	郡山市	
25		医療法人 宣誠会 すみこしこどもクリニック	郡山市	
26		医療法人 渡辺美佳子こどもクリニック	郡山市	
27		わんぱくさいとうこども医院	郡山市	
28		東部台こどもクリニック	田村市	
29	県南	福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市	
30		医療法人 健恵会 ねもとキッズクリニック	白河市	
31		医療法人 わたなべ子どもクリニック	白河市	
32		医療法人 みうら小児クリニック	白河市	
33		医療法人 健恵会 にしごうキッズクリニック	西郷村	
34	会津	一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
35		福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院	会津坂下町	
36		医療法人 清信会 やまみこどもクリニック	会津若松市	
37		扇町渡部小児科・アレルギー科医院	会津若松市	
38		医療法人 社団 大志会 矢吹医院	猪苗代町	
39	南会津	福島県立南会津病院	南会津町	
40	いわき	いわき市医療センター	いわき市	
41		あおぞらキッズクリニック	いわき市	
42		医療法人 おおはらこどもクリニック	いわき市	
43		福田小児科医院	いわき市	

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況 (令和7年4月～令和7年9月末時点)

調査実施機関名：福島ユニットセンター

評価時点	令和7年10月31日
回答者	氏名（ 橋本 浩一 ） 役職（ センター長 ）

※計画実施欄の番号右側（ ）内記号定義 K：Kaizen（計画拡充・改善） N：New（新規計画）

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組

(P) 計画 (D) 実施	○計画1 モチベーション維持に関する取組 指標 13歳までの調査：参加者減少率を1%以内とする。 取組1-1 (K) 環境セミナー（参加者対象イベント）の開催（別紙1） 参加者親子を対象に環境に関する現状・課題を学び合う機会として、顔の見える双方向の交流を図りながら、県内公共施設等において実施している。 県環境創造センターの「コミュタン福島」において、「自然と科学のふしぎ、環境問題について学びましょう！」をテーマとして、令和7年7月に開催した。 第1部では、センター長による13歳以降の調査継続勧奨を含む「エコチル調査でわかってきたことの紹介」と題して講話の時間を設け、第2部では「体験プログラム」として、ファラデーモーターの製作等を体験するとともに、コミュタン福島の見学ツアーにより再生可能エネルギー等について学んだ。 取組1-2 (K) ニュースレターのコンテンツの見直し（別紙2） 参加者との双方向のコミュニケーションツールとして発行しているニュースレター「エコチル★ふくしま こぼちる通信」夏号（令和7年6月発行）においては、参加者に中学生が増えてきたことから、中学生も興味を持つ試みとして、「今年挑戦すること」をテーマに川柳を募集した。 また、地元のサッカーチーム「福島ユナイテッドFC」の選手インタビューを掲載するとともに、「おしえて先生！」コーナーでは、運動部活動が盛んになる時期の情報として、整形外科医師による「スポーツによるけが」をテーマとするなど、中学生が興味を持つコンテンツへの見直しを実施した。
	○計画2 13歳以降調査継続のための取組 指標 13歳以降調査継続：新たな取組により、13歳以降調査の継続率向上につなげる。 取組2-1 (N) 相談体制の強化（別紙3） 13歳以降調査継続勧奨およびサポートのため、引き続き①参加者からの電話による問い合わせや相談対応を行うとともに、②学童期検査会場においては、専任の相談対応スタッフによる対面の相談対応を行った。 さらに、今年度からは、各ユニットセンターに配分された予算を活用して、「13歳以降調査継続に関する相談会」を令和7年6月県内2か所で実施した。

	【会場】 ・福島市会場：スタッフ5名、郡山市会場：スタッフ6名 【告知方法】 ・ユニットセンターのホームページ及びInstagram、X（旧 Twitter） ・相談会開催地に配布される地域情報紙 ・協力意向未回答者へのハガキ発送（対象地域のみ） 取組 2－2（N） 協力医療機関ホームページ（以下 HP）へのバナー設置 学童期検査予約の利便性の向上及び 13 歳以降継続参加につなげるため、協力医療機関に対し、<u>医療機関の HP から検査予約ページに遷移するバナーの設置を依頼した。</u>  取組 2－3（K） 地域運営協議会の体制連携強化（K） 13 歳以降調査を円滑に進めるため、昨年度から小学校長会に加え、中学校長会の会長及び各地域役員の計 8 名に加わっていただいているが、今年度は、<u>年度初めに新任役員を訪問し、中学校における Web 利用の課題等について意見交換し、13 歳以降の Web 調査の参考とした。</u>
(C) 評価	○計画 1 モチベーション維持に関する取組 上半期実施分達成 取組 1－1：環境セミナーのアンケート結果 ・イベントの満足度：目標 80%⇒結果 96% ・環境問題への理解度が深まった人の割合：目標 75%⇒結果 100% イベント参加者へのアンケートより、上記の 2 項目ともに目標達成との結果となった。アンケートでは、「理科で学んだ以外のことも環境セミナーに参加して知ることができた」など、環境セミナーの目的を評価する感想を得た。 取組 1－2：ニュースレターのコンテンツの見直し 小学生だけでなく、中学生からの投稿もあったことから、引き続き、参加者とのコミュニケーション強化のため、保護者だけではなく、<u>参加者の興味にフォーカスしたコンテンツにシフト</u>するなど、見直しを継続していく必要がある。 【取組結果】9 月末時点の子ども現参加者数は 11,794 人（昨年 9 月末時点 11,845 人）、現参加率は、93.4%（前年度同月末から 51 人、0.4% 減少）であり、<u>目標を達成</u>できたことから、参加者の調査参加へのモチベーション維持につながっているものと考えられる。 ○計画 2 13 歳以降調査継続のための取組 上半期実施分ほぼ達成

	取組 2－1：相談会の実施結果 「13 歳以降調査継続に関する相談会」には 41 名の参加があり、13 歳以降調査の継続に繋げることができた。参加者へ説明する中で、<u>学童期検査への参加予約をいただくなど副次的な効果</u>もあった。なお、年度後半にも、同様の相談会を計画している。 取組 2－2：協力医療機関 HP へのバナー設置 9 月末時点で、21 施設の HP にバナーが設置され、学童期検査への誘導、さらには検査会場での 13 歳以降調査継続にも繋がっていると考えられる。 【取組結果】新たに実施した取り組みにより、<u>13 歳以降調査継続参加者の確保及びモチベーション維持につながっているもの</u>と考えられる。
(A) 改善	○計画 1：モチベーション維持に関する取組では、引き続き、<u>顔の見える双方向の交流を継続</u>するとともに、<u>ニュースレターの紙面においては、中学生にも興味を持てる記事を増やす等</u>の取り組みを強化する。 ○計画 2：13 歳以降調査継続のための取組では、引き続き、学童期検査や相談会など、<u>対面での勧奨・サポートができる場面につながる機会を増やす取組を進める</u>。
イ. 質問票回収率の維持・向上の取組	
(P) 計画 (D) 実施	指標 返送方法の工夫により、下降傾向の質問票回収率の維持・向上を図る。 ○計画 1 紙質問票の回収率向上のための取組 取組 1－1 (K) ハガキやショートメール、質問票再送での返送依頼 紙質問票回収率向上に向け、返送依頼を工夫した。学年質問票発送完了後、1 か月目にポストカード、2 か月目に質問票を再送。年明けに更に返送数が増えるよう、3 回目のハガキや質問票の再々送を特例で行った。 年齢質問票は返送依頼時期を見直し、ショートメールを質問票発送後 3 週目→2 週目、7 週目→5 週目にし、質問票再送を 10 週目→9 週目に早めた。 取組 1－2 (K) 質問票へのプレゼント同梱 学年質問票には、参加児同士で同じグッズを持っている事によりコミュニケーションが生まれ、参加意欲向上につながることを期待し、全参加児に実用的で使いやすいノック式消しゴム（図 1）を学年質問票に同封して送った。 12 歳年齢質問票（食事調査票が含まれ分量が多い）返送率向上を目的として、「カスタマイズボールペンキャンペーン」を実施した。発送時にボールペン本体と赤黒 2 本のリフィル芯を同封し、質問票を返送いただくと残り 3 本の希望するリフィル芯を進呈することとした（図 2）。参加者自身が質問票を返送することでボールペンを完成させる喜びを感じられるようにした。 図 1 ノック式消しゴム (学年質問票郵送封筒に封入して進呈) 図 2 カスタマイズボールペンキャンペーン (12 歳質問票)  +  届いたリフィル 芯を入れたら完成 

○ 計画2 Web 質問票の回収率向上のための取組

取組1-1 (N) | 参加者ポータルシステム「お知らせ」機能の活用

Web 質問票回答率向上に向け Web 質問票配信時には、ユニットセンターからもアプリの「お知らせ」機能を活用しメールを送信した。また、Web 質問票未回答者には同様の機能を使い回答依頼を行った。

取組1-2 (N) | ハガキによる回答依頼とプレゼント送付

Web 質問票の回答依頼をハガキでも行った。保護者へは、13 歳以降継続のお礼やポイント交換方法等を記載したハガキを送付した。参加児へは、全員に学習に役立つプレゼント「はがせる暗記マーカー」を送付した。

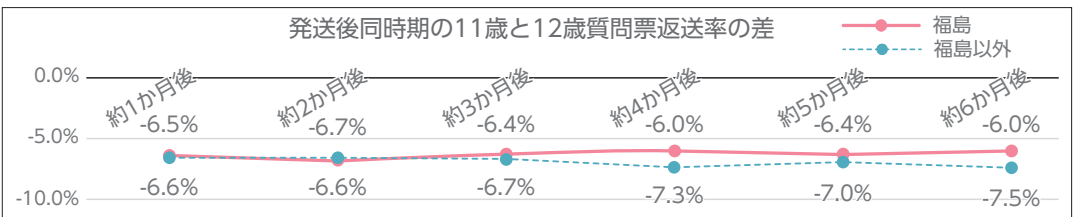
取組1-3 (N) | 参加者からの声をニュースレターへ掲載

ニュースレターの記事に Web 質問票へ回答している保護者と参加児からの感想を掲載し、Web 質問票への回答を促した (図3)。

図3 ニュースレター掲載記事



○計画1 紙質問票の回収率向上のための取組



ノック式消しゴムについて、参加者からは「実務担当者へ消しゴムを調査票調査進捗状況資料として送ります」等のお手紙や感想が寄せられた。

カスタマイズボールペンについては、参加者からの電話等で、「いつ替え芯届けて貰えますか」「子どもが毎日ポストを見に行って、替え芯届くのを楽しみに待っています」等の連絡をいただき、関心を寄せる取組となったことが伺えた。

11 歳と 12 歳質問票返送率から、大幅な返送率の低下はなく回収率を維持していることがわかる (図4)。現時点ではキャンペーンの効果が現れている。

○計画2 Web 質問票の回収率向上のための取組

4月1日から保護者と子どもそれぞれに Web 質問票の配信が開始され、2 週間毎に回答数を確認し、質問票回答率の推移をグラフにして記録した。

(C) 評価

	プレゼントを送付した時点と1か月後で、6月配信の保護者質問票回答率を比較すると、6.5ポイント（53.9%→60.4%）、子ども質問票の回答率を比較すると3.3ポイント（56.2%→59.5%）上昇した（図5）。 ニュースレターを送付した時点と、1か月後の9月配信の保護者質問票回答率を比較すると、4.4ポイント（43.9%→48.3%）、子ども質問票の回答率を比較すると7.2ポイント（44.6%→51.8%）上昇した（図6）。 図5 プレゼントの効果 <table><tr><th>対象者</th><th>プレゼント発送時</th><th>1か月後</th></tr><tr><td>保護者</td><td>53.9%</td><td>60.4%</td></tr><tr><td>子ども</td><td>56.2%</td><td>59.5%</td></tr></table> 図6 ニュースレター記事の効果 <table><tr><th>対象者</th><th>プレゼント発送時</th><th>1か月後</th></tr><tr><td>保護者</td><td>43.9%</td><td>48.3%</td></tr><tr><td>子ども</td><td>44.6%</td><td>51.8%</td></tr></table> 上昇率は他の週よりも高く、参加者とのコミュニケーション活動が回答率を上げるには不可欠であると言える。	対象者	プレゼント発送時	1か月後	保護者	53.9%	60.4%	子ども	56.2%	59.5%	対象者	プレゼント発送時	1か月後	保護者	43.9%	48.3%	子ども	44.6%	51.8%
対象者	プレゼント発送時	1か月後																	
保護者	53.9%	60.4%																	
子ども	56.2%	59.5%																	
対象者	プレゼント発送時	1か月後																	
保護者	43.9%	48.3%																	
子ども	44.6%	51.8%																	
(A) 改善	○計画1 紙質問票の回収率向上のための取組 紙質問票での定期的な返送依頼を継続する。一方で高提出率の参加者から協力取りやめの申し出が散見されている。状況等について詳しく話を聞き、無理なく負担にならないように継続参加できる働きかけを行っていく。 ○計画2 Web 質問票の回収率向上のための取組 余裕をもって回答していただくため、長期休みや連休等に合わせてポータルシステムからの「お知らせ」配信を検討していく。また、ニュースレターによるコミュニケーション活動は効果があるので、より多くの回答が得られるように今後も工夫していく。																		
ウ. 成果の社会還元の取組																			
(P) 計画 (D) 実施	参加者をはじめ福島県民へエコチル調査継続の周知及び成果を広く社会へ還元することを目指す。特に中心仮説課題の社会還元に取り組む。 ○計画1 (K) 学術分野における成果還元 指標 中心仮説を含む積極的な論文発表ができる 取組1-1 (K) 全学の研究活性化を通じた学術論文発表促進 全学での学術成果発表促進のため、学術ワーキンググループ（以下、WG）を運営し、定例勉強会（毎月）・学内査読・研究相談等を実施した。 解析用データセット作成支援員を配置し、新規データ利用者へのデータ取扱オリエンテーションの実施、希望者への相談対応を行った。 中心仮説課題の論文執筆の加速化に加え、プレスリリース時の対応について学内で調整し、フローの作成を含めた実施体制を構築した。																		

取組 1－2 (K) | 学術の発展・教育活動を通じた人材育成への貢献

エコチル調査の成果等（成果発表届出対象）を含む、学会発表、学会シンポジウム・セミナー・研修会等の講演を令和7年4月～10月までに計13件行った。

○計画 2 (K) 参加者・県民の環境・健康への関心が高まる成果共有

指標	1) 参加者・県民へ成果を周知する機会を持つ 2) 環境・健康への関心が高まる取組を実施し、高い満足度（80%以上）を得る
----	--

取組 2－1 (K) | 参加児含む県民の調査認知度を高めるイベント開催

参加児を含む親子を対象に県内地域資源を活用した体験型学習の機会を提供した。2025年度は10月に郡山カルチャーパーク（郡山市観光交流振興公社）にて地域スポーツスクールの協力により「エコチル★ふくしま おやこでダンス教室」を開催した。センター長によるエコチル調査から分かってきたことの紹介や13歳以降調査に関する説明・協力依頼を行った。

取組 2－2 (K) | 研究成果還元資料の作成・配付

「エコチル調査からわかってきたことエコチル★ふくしま版」（A4サイズ1枚両面（小学校のお知らせ仕様）を年1回発行し、ニュースレターに同封し配付した（別紙4）。また、一般向けにホームページへ掲載して周知を図った。第4号は令和7年3月に発行し、第5号は子ども向け紙面を含めた研究成果の発信を予定している。

取組 2－3 (K) | 県民（一般）との成果共有、調査に対する理解の醸成

自治体等主催イベント2イベント（郡山市こどもまつり、大学主催地域健康イベント）へブース出展し、調査や成果の周知を図った。

取組 2－4 (N) | 「調査からわかったプレコンセプションケア」講演

福島ユニットセンター副センター長（産婦人科医）によるエコチル調査から得られたプレコンセプションケアに関する知見について、県内保健医療従事者および高校生を対象にした講演を実施した。その知見が今後大切となる高校生に広く聞いてもらえるよう、計画を発展させ、福島県教育庁健康教育課との連携を進めた。今後健康教育課より、福島県内高等学校へ出前授業の案内を配布してもらい、希望校を募る予定である

○計画 3 (K) 県内学校保健・教育分野との連携強化

指標	学校保健・教育分野の地域運営協議会委員と調査の円滑な実施や成果還元において連携が強化できる
----	---

取組 3－1 (K) | 中心仮説課題を含めた成果報告

地域運営協議会において、福島ユニットセンターで論文執筆された課題の成果報告を行った。特にプレスリリースされた中心仮説課題についても執筆者が委員に分かりやすい形で説明した。

(C) 評価	取組 3－2 (K) 質問票回答集計結果資料掲載データ活用 教育機関及び行政機関において関心のある事項をまとめた「エコチル調査からかわってきたこと vol. 3」(9歳までの質問票単純集計結果のリーフレット)を発行し、参加者、教育・行政機関等へ配布した(別紙5)。教育現場等で利用できるようデータ提供用に各図表の画像(jpeg/png形式)ファイルを準備し、広い利活用を目指し対応した。 ○計画1 学術分野における成果の還元 <u>【上半期達成】</u> 中心仮説課題3編がアクセプトされ、2編のプレスリリースを終え、1編が準備中である(2025年10月28日現在)。新聞社からの取材申し込みを受け、2編それぞれが2025年4月23日、2025年10月1日に新聞掲載された。学内でプレスリリース時の対応について体制構築していたことで滞りなく進めることができ、新聞等により広く情報発信がなされた。 ＜大学 HP 掲載内容＞  さい帯血中カドミウム濃度と 子どもの性比との関連  重金属と子どものぜん喘 ○計画2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有 <u>【上半期達成】</u> 2－1の「おやこでダンス教室」は、88名が来場し、アンケートの結果、イベント参加について保護者の100%、子どもの98%が満足と回答した。また、「エコチル調査でわかってきたこと」の講演について100%が調査への理解が深まったと回答した。2－3の「郡山市こどもまつり」は終了し、ブースの来場者が700人を超え盛況であり、広くエコチル調査に対する理解醸成の機会となった。 ○計画3 県内学校保健・教育分野との連携強化 <u>【上半期達成】</u> 教育関連機関委員との連携強化に向け各種項目に取組んだ。地域運営協議会委員へのアンケート回答より「エコチル調査で得られたデータを論文等によって、社会に貢献していくこと、子どもと保護者に還元していることが、素晴らしい取り組みだと感じた」との回答があった。エコチル調査への関心を高め、調査の円滑な実施に向け連携が強化されたと考えられた。
(A) 改善	○計画1 学術分野における成果の還元 公表された6歳時固定データを利用し、昨年度より多くの関係者が論文執筆活動に従事できるよう取組む。 ○計画2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有 今年度実施予定の項目を含む2－2から2－4に引き続き取組む。取組を評価し、次年度の活動計画に反映させていく。

○計画 3 県内学校保健・教育分野との連携強化

エコチル調査の成果を含めた出前授業の拡大を含め、引き続き県内学校保健・教育分野との連携を強化していく。

福島ユニットセンター PDCA サイクルにおける取組状況 参考資料

別紙 1 環境セミナー

第8回エコチル★ふくしま環境セミナー 参加者を募集します！

親子で挑戦！自然と科学のふしぎ in コミュタン福島

エコチル調査
でわかってき
たことの紹介

星砂
ストラップ
をつくろう

ファラデー
モーターを
つくろう

コミュタン
福島見学
ツアー

開催日 **2025年7月13日(日)**
10:00～12:30(予定)

場 所: コミュタン福島(環境創造センター交流棟)

参加対象: エコチル調査に参加しているお子さまとご家族さま

募集定員: 30組(一家族4名まで) ※お申込者多数の場合は抽選となります。

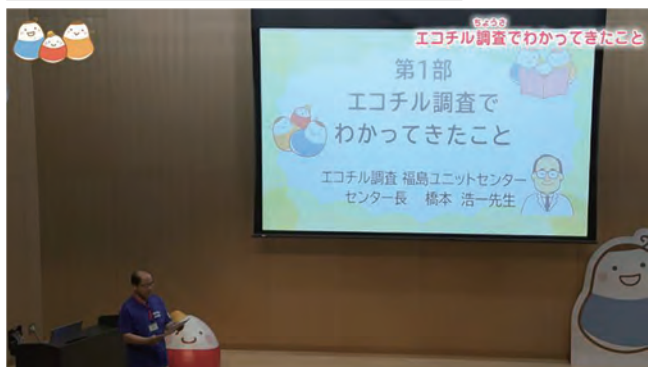
申込方法: エコチル★ふくしまホームページから応募ください。

申込期間: 2025年3月14日(金)～6月12日(木)
※体験プログラムの作品はお持ち帰りいただけます。

参加費 無料!

イベントの詳細・応募はこちらから▶

第1部 エコチル調査でわかってきたこと



第2部 体験プログラム



別紙 4



エコチル調査で わかってきたこと

エコチル★
ふくしま版
第4号

いつもエコチル調査へのご協力ありがとうございます。2024年までに全国のデータを用いて発表された論文は497編となりました(調査エコチル調査ホームページ成果発表一覧掲載)。本号ではこれまでにエコチル調査でわかってきた妊娠前、妊娠中の生活と健康についてまとめました。

「プレコンセプションケア」とは？

ふくしま子ども・女性医療支援センター／産婦人科医師の西郡秀和先生に聞いてみよう！
西郡先生、「プレコンセプションケア」ってなんですか？

すべての若い世代の人たちがより健康な生活を送ることが大切なだね。

英語で、プレは「～の前の」、コンセプションは「妊娠する」ことです。プレコンセプションケアは、若い世代のみなさんが、将来のライフプランを考えて、自分たちの生活や体の健康を大切にすることを意味します。

これまでの研究で、赤ちゃんがおなかの中にいるときの環境が、大人になってからの健康にも影響することが分かっています。

プレコンセプションケアは、未来の子どもの健康にもつながる取組です。エコチル調査と似ていますね。

西郡秀和
産婦人科医師
ふくしま子ども・女性医療支援センター
産婦人科医師の西郡先生に聞いてみよう！
西郡先生「プレコンセプションケア」ってなんですか？

エコチル調査でわかってきた「プレコンセプションケア」の大切な「食事」

これは、僕によい食品ですね。パンの代わりに魚がよいですね。

エコチル調査の質問票で、お母さんが妊娠する前や妊娠中の食事について回答してもらいました。その結果、妊娠中のお母さんの健康、赤ちゃんが生まれるときによい状態になりやすい食品や食事内容がわかってきました。

魚介類
Mikawa T. et al. Br J Nutr. 2019
Jouin M. et al. Front Public Health. 2024

抗炎症食にうんぬん(うんぬん)
細胞の老化につながる活性酸素の発生を抑制、消去する成分が多く含まれる魚・緑黄色野菜・ベリー類・ナッツ類などの食事

Ichihashi M. et al. Matern Child Nutr. 2020
Kiyosaka H. et al. Nutrients. 2020
Kiyosaka H. et al. Pregnancy Hypertens. 2022

発酵食品
みそ汁、納豆、ヨーグルトなど
Tanaka T. et al. Asia Pac J Clin Nutr. 2024
Ho M. et al. Environ Health Prev Med. 2019

食物繊維の多い食品
Onoda T. et al. Nutrients. 2024
Onoda T. et al. Pregnancy Hypertens. 2024
Miyake K. et al. Front Nutr. 2023

エコチル調査の
研究結果は、
こちらでご覧いただけます



環境省エコチル調査
ホームページ
成果発表一覧



環境省エコチル調査ホームページ
子どもたちの健康や未来のために
「エコチル情報」
(産婦人科) (パンフレット) (2024年4月)



別紙 5



エコチル調査

子どもの健康と環境に関する全国調査

エコチル調査で わかってきたこと

Vol.3

福島ユニットセンターにおける
質問票調査の回答結果より



公立大学法人福島県立医科大学
エコチル調査福島ユニットセンター



環境省
Ministry of the Environment



国立環境研究所
National Institute for Environmental Studies



福島県立医科大学
Fukushima Medical University

エコチル調査でわかってきたこと 妊娠中の生活と健康(お母さんから子どもへ)・食事(たばこを吸うこと)・生活(たばこを吸うこと)・労働(たばこを吸うこと)の影響

妊娠前・妊娠中
妊娠前・妊娠中の生活と健康(お母さんから子どもへ)・食事(たばこを吸うこと)・生活(たばこを吸うこと)・労働(たばこを吸うこと)の影響

妊娠前・妊娠中の生活と健康(お母さんから子どもへ)・食事(たばこを吸うこと)・生活(たばこを吸うこと)・労働(たばこを吸うこと)の影響

妊娠前・妊娠中の生活と健康(お母さんから子どもへ)・食事(たばこを吸うこと)・生活(たばこを吸うこと)・労働(たばこを吸うこと)の影響

妊娠前・妊娠中の生活と健康(お母さんから子どもへ)・食事(たばこを吸うこと)・生活(たばこを吸うこと)・労働(たばこを吸うこと)の影響

4歳半から6歳までのデータが加わった研究が始まります！

いつも、エコチル調査に協力していただきありがとうございます。これまで4歳半までのデータを利用して、妊娠・出産、育児の健康・育児についての研究が多く発表されました。その中でも、赤ちゃんの健康・育児についての研究が加わりました。赤ちゃんの健康・育児についての研究が加わりました。赤ちゃんの健康・育児についての研究が加わりました。

13歳以上の調査(育ち育ち育ち)のご協力をお願いします

お子さんが中学生になったら、13歳以上の調査にご協力をお願いします。育ち育ち育ち(育ち育ち育ち)のご協力をお願いします。育ち育ち育ち(育ち育ち育ち)のご協力をお願いします。

GOALS

1. 子どもの健康と環境に関する全国調査

2. 子どもの健康と環境に関する全国調査

3. 子どもの健康と環境に関する全国調査

アンケートにご協力をお願いします



子どもの肥満

Q. 小学校で測定したお子さんの身体測定の記録

小学1年質問票(回答数9,477件)、小学2年質問票(回答数8,888件)、小学3年質問票(回答数8,587件)の身体測定の記録から学年ごとに測定したデータを分類して集計しました。

男児

学年	やせ傾向	ふつう	肥満傾向	集計数
小学1年生	0.8%	89.4%	9.8%	3,145
小学2年生	0.9%	87.4%	11.6%	3,353
小学3年生	1.2%	83.5%	15.3%	3,036

女児

学年	やせ傾向	ふつう	肥満傾向	集計数
小学1年生	0.5%	91.7%	7.8%	2,904
小学2年生	1.0%	88.6%	10.5%	3,146
小学3年生	1.2%	87.7%	11.1%	2,871

2025年2月1日時点の福島県立医科大学のデータに基づく暫定的な結果です

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度(= (実測体重kg - 標準体重kg) / 標準体重kg × 100%)を算出し、20%以上を肥満傾向、-20%以下をやせ傾向としています。

参考：公益財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(平成27年度改訂版)」

おしえて先生！あんなこと、こんなこと

子どもの肥満について

福島県立医科大学 小児科講座 助産 小野 敦史 先生

Q. 肥満とは？
一般的に、正常と比較して体重や体脂肪が過剰に多いことを肥満といいます。肥満を判定する際、成人ではBMIが用いられますが、小児では年齢によってBMIの正常値が異なるため、肥満度(= (実測体重kg - 標準体重kg) / 標準体重kg × 100%)が用いられています。小児では、この肥満度が20%以上を肥満としています。肥満には、基礎疾患のない原発性肥満と基礎疾患をもつ二次性肥満があり、小児では多くが原発性肥満です。

Q. 子どもの肥満の問題点は？
小児の原発性肥満は、①肥満に伴う健康障害のない「肥満」、②内臓脂肪蓄積があり、健康障害を有する「肥満症」、③内臓脂肪蓄積に、脂質異常や高血圧、空腹時血糖の心血管危険因子を複数もつ「メタボリックシンドローム(MetS)」に分類されます。この2肥満症と③MetSが心臓病や脳卒中などの生活習慣病のリスクファクターとなるため、医療介入が必要となります。

Q. 治療法は？
上記の①や②を予防するため、①のうちに食事療法や運動療法を開始します。肥満は、不適切な食事内容や運動不足による過剰なカロリー摂取であることが多く、食事療法では「日本人の食事摂取基準」を参考に、年齢や身体活動レベルから算出したカロリーを目安として管理を行います。しかし、小児での食事制限は好ましくなく、成長に必要なカロリーや栄養素(蛋白質、脂質)をしっかりと摂取した上で運動療法により消費カロリーを増やすことが重要です。例えば、果糖糖と治療のための具体的な食事内容について相談してはいかがでしょうか。散歩や外遊びを増やすなど調整できる運動から始めてはいかがでしょうか。また、自己管理として毎日の体重や食事内容を記録し、肥満を治療しているという意識を持つことも重要です。いずれにしても短期間での治療効果は出ませんので、中・長期的に継続して生活習慣病の予防を心がけることが重要です。

〔ご参考〕2023年春号(No.36)より掲載

2025 年秋・冬号（令和7年11月発行）

[illegible]

こけろ3通信



遊んで！学んで！エコチル★キッズ！ vol.13

「福島ファイヤーボンズ 笠井選手」からお話を伺いました

**夢への一歩、そして未来へ
～ 笠井康平選手 インタビュー ～**

「B2リーグで熱い戦いを繰り広げる福島ファイヤーボンズ」
今回は、チームを支える笠井選手に話を伺いました。

バスケットボール選手を目指したきっかけは？

父親がバスケットをしていた影響で始めました。小さい頃からボールで遊んでおり、物心ついた時にはバスケットをしていました。中学、高校で世代別の代表に参加した経験もあり、プロを目指そうになりました。

どのような努力をしてきましたか？

今振り返ると、バスケットを楽しむ続けたことが一番の努力だと思います。苦しい経験もありましたが、バスケットをしている時間は夢中になれる、NBA選手の真似をするなど、とにかくバスケットができたことがプロになった原因だと感じています。

今の目標、夢はありますか？

チームとしてはプレーオフ出場が目標です。
個人としては、怪我なく全試合に出場すること、そして日々少しでも成長を実感できるよう努力し続けることです。

未来を担うエコチルキッズへ

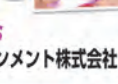
とにかく夢中になって、楽しみながら頑張ってください。
そして、何事でも一人では成し遂げられないので、好きなことをさせてくれる親や仲間と感謝し、夢に向かって努力を続けてください。
これからも応援をお願いします。













福島スポーツエンタテインメント株式会社



2025年度学童期検査 (小学6年生) のご案内

小学6年生（2013年度生まれ）を対象とした学童期検査を実施中です！
2025年度の調査は、2026年4月まで実施いたします。
みなさまのご協力が必要な検査です。ご参加をお待ちしています！！



検査について

- ※検査は、2025年度生まれの小学6年生の1つの検査であり、必ずしも1人で実施します（※1）。
- ※1つの検査は1日でも受けることができます。

検査の流れ

検査項目	検査内容
① 身長・体重・BMI	② 骨密度
③ 骨質検査	④ 骨質検査
⑤ 骨質検査	⑥ 骨質検査
⑦ 骨質検査	⑧ 骨質検査

検査の場所

2025年度生まれの小学6年生は、検査を受けることができます。

お知らせ 2014年度生まれの参加者を対象とした学童期検査(小学6年生)は、2026年6月から始まる予定です。

※WEB予約システムは、実施時期によって変更されています。検査日の方の「予約」ボタンを押していただくことで見えていない情報も表示されます。ご不便をおかけしますがご確認ください。

13歳以降調査スタートしています

● 中学1年生・2年生のお子さまも保護者の皆さま、4月よりWEB実用版が配信されています。

● 2025年度の配信スケジュール

※ 中学1年生・2年生のお子さまも保護者の皆さま、4月よりWEB実用版が配信されています。

● 小学6年生の調査を受ける保護者の皆さま、13歳以降調査続行手続きはお済みですか？

続行手続きはこちら

① エコチル調査アプリをインストール
保護者専用続行4ステップで完了
→ **500円**分
② 保護者専用続行4ステップで完了
→ **500円**分
③ 保護者専用続行4ステップで完了
→ **500円**分

2025年度調査の結果

検査日の方のアンケート結果

調査項目	回答人数
検査日の方のアンケート結果	42
検査日の方のアンケート結果	13
検査日の方のアンケート結果	3

※ 検査日の方のアンケート結果は、検査日の方のアンケート結果に基づいて算出されています。

アンケートに協力してくれた中学生のみなさん、ありがとうございました！！

実行/エコチル調査場ユニネットセンター
№.45

エコチル調査☆ふくしま

こぼちる通信

2026 年春号

あなたの川柳『家族・ペットあるある』

次号より新たなコーナー開始！
詳しくは中面で！

おしえて先生！ みんなこも、こんなこも

リトルリダージュルダートについて

福田 裕也 先生

nanaco カードのお知らせ

2026年3月末にポイントの有効期限が切れてしまうものがあります！

お早目に電子マネーに交換してください！

現在小学6年生の参加者の皆さまへ

13歳以降調査からのお知らせ

●中学生のお子さんと保護者の皆さまへ

WEB調査開始スケジュール

4月・6月・9月・12月・3月の各1日に実施

13歳以下調査から

この春、お引越しされるご家庭のある方は、ユニネットセンターまでご連絡をお願いします！

エコチル調査場ユニネットセンターのお知らせ

●福島県立総合センター (総合棟) ●福島県立総合センター (環境棟)

TEL 024-547-1449

こぼちる通信
2026 年春号

選んで！学んで！エコチル調査☆キッズ Vol.14

福島レッドホープス「佐藤謙三」からお話を伺いました

夢への一歩、そして未来へ

～佐藤謙三選手インタビュー～

野球選手を目指したきっかけは？

どのような努力をされましたか？

今の目標、夢はありますか？

未来を担うエコチル調査☆キッズへ

株式会社福島野球団

〒963-8052 福島県郡山市八山田3-22

TEL: 024-923-1789 (平日10:00～18:00)

新小学6年生対象とした学習調査が2026年6月から始まります

対象 (2014年度生まれ) の方には、案内資料を5月中旬頃より発送いたします。

参加者募集！

親子で挑戦！自然と科学のふしぎ

in コミュニタツ福島

2026年7月12日(日)

参加費 無料！

7月12日(日) 10:00～12:30

コニヤコニヤ (福島県立総合センター) 実施

2026年3月13日(金)～6月4日(木)

編集・発行

公立大学法人 福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地
TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

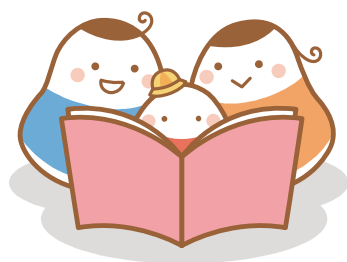
* お問い合わせ窓口 TEL 024-547-1449

エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒963-8025 福島県郡山市桑野 1 丁目 21 番 17 号
桑野共栄ビル 2 階

TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

* お問い合わせ窓口 TEL 024-983-4780



福島ユニットセンターキャラクター 『こぼちる』について

福島を代表する民芸品、起き上がりこぼしをモチーフとし、
転んでも起き上がり、すくすくと元気に育つ子ども（赤ちゃん）
をイメージしています。事業名のエコチルを組み合わせ、
誰が見ても聞いても両方をイメージしやすい名前を付けました。
子どもたちの健やかな成長を願う思いが込められています。

